651-32
1200501569963
651
32

昭和十二年版

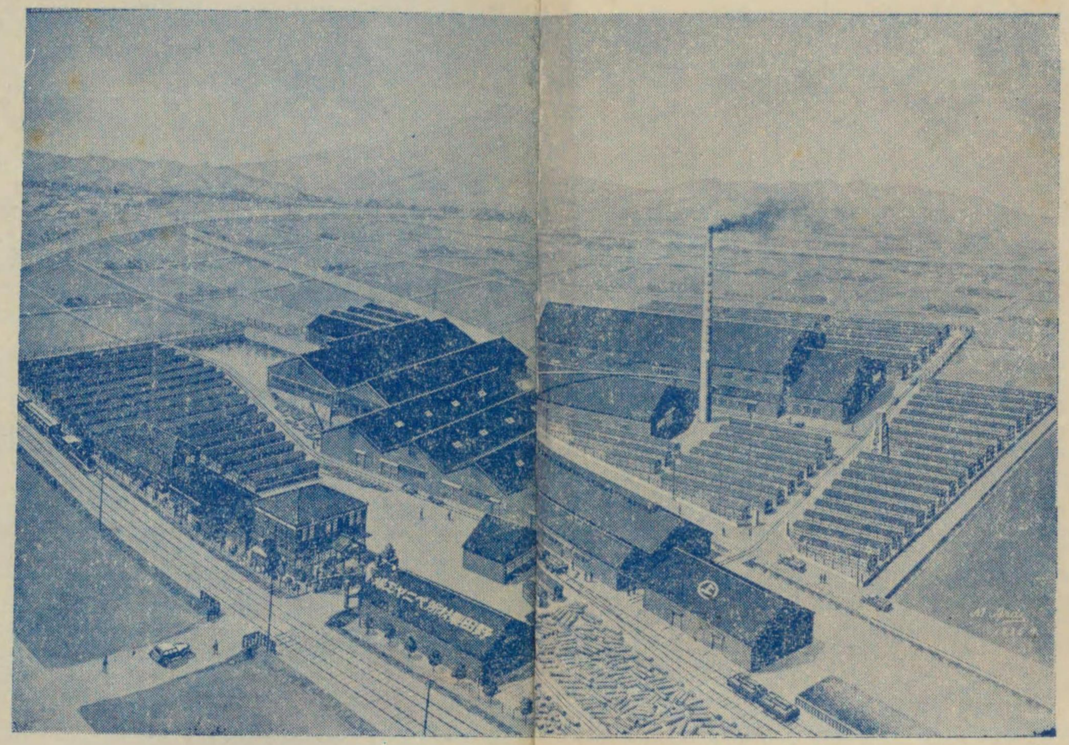
駿河年鑑

清水日日新聞社發行

651
32

各種ベニヤ板製造

年産額四千萬平方尺



㊤ 野田材所

Ⓝ 野田製ベニヤ部

從業員

百五十名

靜岡縣岩淵

電話 工場 三番 自宅 三番

振替口座東京一一四四一番

駿河年鑑

— 1937 —

清水日日新聞社編

各植物油製造及肥料

瀨本製油株式會社

本　社　東京市本所區吾妻橋二ノ二七
電話墨田九五七番

製油工場　東京市葛飾區小菅町綾瀨河岸
電話足立二五八六番

仝　三重縣四日市市築港
電話四日市一四二七番

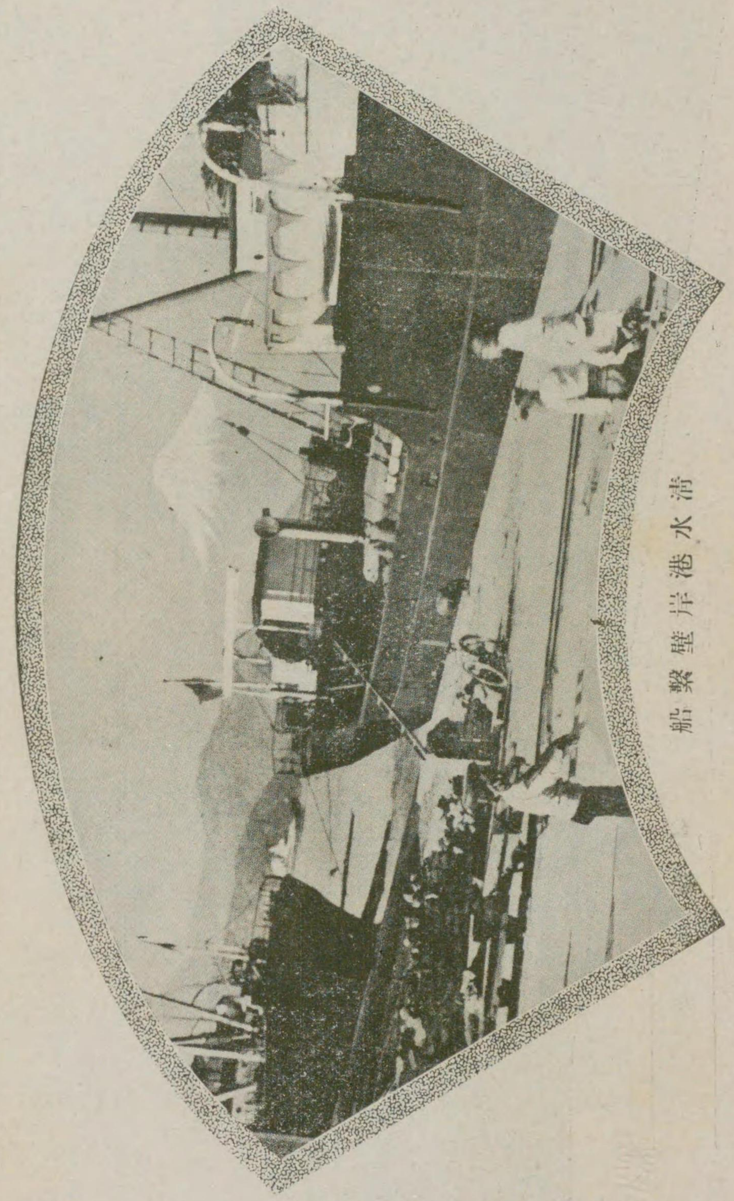
振作更張

時華灣

海岸　保三一

—所役市水清—

—景全港水清—



清水港岸壁繫船

昭和十一年度（百五十圓以上）附番税益收業營

東

横綱	一六、一〇六、二八	豐年製油株式會社	前頭 三七、〇〇 伊藤德太郎
大關	二、二〇四、五〇	株式會社三十五銀行	〃 三〇、八〇〇 太田商
關脇	一、四六六、八五	增田商事株式會社	〃 二二、三、二〇 株式會社伊豆銀行
小結	一、三四四、六三	清水水產株式會社	〃 一九、九、二一 三井物產株式會社
前頭	一、二二四、五八	株式會社清水魚市場	〃 一九、六、二〇 府川鐵藏
〃	一、〇六一、〇〇	天龍製材株式會社	〃 一七、八、〇〇 長島銀藏
〃	八四六、〇五	株式會社駿州銀行	〃 一七、六、七〇 劍持宰司
〃	六三五、四五	株式會社駿河銀行	〃 一六、六、三〇 日本石油株式會社
〃	五四二、〇〇	片山芳松	〃 一六、一、六七 合資會社片山船具店
〃	四二〇、二〇	小鹽幾	

西

横綱	六、一六五、一二	株式會社巴川製紙所	前頭 二五九、〇〇 清水倉庫株式會社
大關	二、〇四七、二七	東京電燈株式會社	〃 二二七、〇〇 杉山虎藏
關脇	一、五六六、〇三	清水食品株式會社	〃 二〇四、〇〇 池上彌治郎
小結	一、三八七、〇五	清水運送株式會社	〃 一九三、三七 鈴木政七
前頭	一、一九二、〇〇	後藤磯吉	〃 一七八、〇〇 清水木材株式會社
〃	一、〇七五、八三	株式會社中埜酒店	〃 一七一、三六 鈴與倉庫株式會社
〃	九一四、〇〇	合資會社金指造船所	〃 一六九、一〇 株式會社横山製材所
〃	六二九、五一	株式會社北海木材商會	〃 一五四、〇〇 伏見萬次郎
〃	五三一、六二	日本食料工業株式會社	
〃	三三七、二四	合資會社望月兄弟商會	

蒙御免　行司　三七、五二〇、〇四　株式會社鈴與商店　勸進元　清水商工會議所

清水市　昭和十一年度

戸數割納稅額番附

東の方

横綱	一、四四、七七	清水六區	芝野榮七
大關	一、三六、〇五	本郷	佐藤つや
關脇	一、三六、八八	清水六區	鈴木平六
小結	一、〇〇〇、〇〇	港町一丁目	後藤磯吉
前頭	五三四、六四	辻四區	長阪光夫
〃	四六三、一三	清水三區	石野源七
〃	四三七、一五	清水七區	杉山虎藏
〃	三八四、六八	辻四區	飯持宰司
〃	三七六、〇〇	岡	野鐘作
〃	三六七、一八	塚	間金指丈吉
〃	三三七、三一	折戸	柴田勝五郎
〃	三三九、六八	上清水	深澤卯兵衛
前頭	三一一、一〇	下清水	原田三左衛門
〃	三〇四、〇八	清水二區	杉山作平
〃	二九九、八四	上清水	野常太郎
〃	二九三、六七	清水三區	望月貞策
〃	二六四、二〇	入江一丁目	鈴木桂一
〃	二五七、三五	八江一丁目	田中ひさ
〃	二三七、〇八	大曲	太田循
〃	二二六、一八	入江一丁目	府川鐵藏
〃	二一〇、五〇	幸町	櫻田與市
〃	二一七、〇九	上清水	長澤重兵衛
〃	二一二、四五	萬世町一丁目	柴田準藏
〃	二一一、六三	辻四區	山本文夫

蒙御免　行司　五、五五八、〇〇　入船町三丁目　鈴木與平　勸進元　清水日日新聞社

西の方

横綱	一、二八八、九一	本郷	山梨謙藏
大關	一、二九、一〇	入江二丁目	眞月治作
關脇	一、〇五九、一五	傳馬町	山芳松郎
小結	六〇五、四一	月	鐵太郎
前頭	四八八、六〇	入江一丁目	小塩幾松
〃	四四八、三五	清水六區	山田惣左衛門
〃	四二〇、九三	上清水	望月徹作
〃	三八一、四六	辻四區	長坂峻一
〃	三七三、七五	松原町二丁目	板倉正雄
〃	二五九、九四	鍛冶町	池上彌治郎
〃	二三一、五三	入江三丁目	佐藤清
〃	二二七、〇〇	清水六區	原臺吉
前頭	三〇九、八八	入江一丁目	野村清治
〃	三〇〇、〇〇	港町	清水九區伊藤德太郎
〃	二八五、三五	入江三丁目	土谷浩平
〃	二七五、八四	入江一丁目	岡田大三
〃	二五八、八八	萬世町二丁目	中村藤太郎
〃	二三八、一三	清水七區	土屋大吉
〃	二三五、三四	清水八區	山田圖機
〃	二三一、八六	入江一丁目	義村勝重
〃	二二〇、〇一	入江三丁目	高田璋一
〃	二一六、一四	港町四丁目	望月益之助
〃	二一二、〇三	辻四區	山本正治
〃	二〇九、三七	仲町	坪井敬司

輸出向
一般向　罐詰製造販賣
冷凍魚輸出
冷藏業

SSK

清水食品株式會社

本社　清水市築地町二丁目二二番地　電話九一七六五〇番　五四五

第一工場　清水市築地町二丁目二二
第二工場　清水市築地町一丁目五五
興津工場　興津町中宿一、四八二ノ一三

關係會社

丸東罐詰株式會社　静岡縣焼津町
沼津食品株式會社　静岡縣沼津市千本
旭海産興業株式會社　千葉縣勝浦町濱勝浦
茨城水産工業株式會社　茨木縣大津町
湊産業株式會社　茨木縣湊町

清水市愛染町

榛葉鑄造所

電話七〇八番

非常時——消防報國——良品普及

消防ポンプ界未曾有2.000.000圓突破
（逐年の賣行增加は何を物語る？）

絶對安心な・ポンプ購入方法

ポンプノ購入ニ際シ其ノ選定ニ御迷ヒニナル事ハ既ニ過去ノ遺物デス。現在デハ絶對安心ナ方法ガアリマス。

第一、各所ヘ照會スルコト

ポンプニ對スル御希望ノ條件ヲ詳細ニ示シテ出來ル丈ケ廣イ範圍ニ照會スルコト（例ヘバ豫算何程ニテ何ガロン位放水能力アル乘員何人位ノ喞筒自動車）

第二、完全ナ工場ノ無イ所カラ購入セヌ事

完全ナ工場ガ有ル樣ニ宣傳シマスガ實ハ工場ラシイ工場ノ無イ製作者即チ單ニ各部分品ヲ集メテ組立テルニ止マル工場ハ部分品ノ規格一定セズ形體ノ模倣ニ終リ尙ホ且ツ將來性ニツキ或ル種ノ疑惧アルヲ以テ除外スルコト

第三、左ノ各條ヲ快諾シタ處ト同一價格ヲ以テ仮ニ契約スルコト

イ、日時場所ヲ定メテ各製作者ニ現品ヲ持參セシムル事
ロ、相當長時間ノ連續運轉ヲ行フ事
ハ、眞空能率ヲ試驗スル事
「何秒ニテ何十尺ノ深キ處ヨリ吸水シ得ルヤ」眞空試驗連續何回ニ耐ユルヤ
ニ、放水能率ヲ試驗スル事（放水量ハ毎分何ガロン放水スルヤ。最高壓力ハ何ポンドナリヤ）
「右ロハニノ試驗ニテポンプ能率ノ良否ハ簡易ニ判定シ得ルモノナリ」
「註ハニノ試驗ニハ計器ノ商工省檢定封印ヲ調ベ且ツ各狂ヒナキヤ否ヤヲ檢スル爲メ競爭者相互ノポンプニ取付タル
ゲーヂノ交換取付ヲ爲シ再試驗スルコト
ホ、取扱方法及ビ耐久性ニ關シ設計ガ合理的ナルヤ否ヲ調ベル
エンヂン及ビポンプノ回轉等ガ其ノ所定外ニアラザルヤ。其他各部ノ取扱方法ガ利便ナルヤ否ヤヲ調ベルコト

技術優秀・自給自足
材料豐富・分擔責任
製產臺數全國第一

東京市神田區和泉町一番地
日本消防機製造株式會社

工場　栃木縣鹿沼町一七五番地
電話鹿沼八六番
分工場　東京都東京市神田區和泉町一七五番地
電話下谷五六六番
東京市東京市神田區紙園町一七五番地
電話・岡市
サービス部　福岡

東京電燈株式會社
沼津支店

靜岡市鷹匠町一丁目
靜岡電氣鐵道株式會社
電話五五〇番
九六五
七五〇

靜岡縣下最古の新聞

朝刊・夕刊・八頁

靜岡市紺屋町四十六番地

電話 編輯部 二五・八三四 / 營業部 三五五

取締役 鈴木平一郎

東京支局 東京市銀座西八丁目日本鑛業會館 電話銀座(75)三六〇六

大阪支局 大阪市北區小深町二五 電話北五五五八

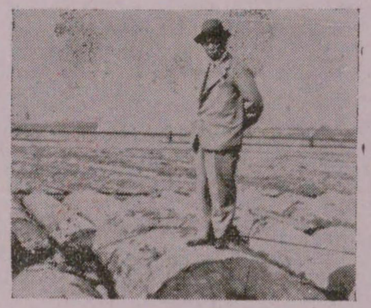
産ト ツ ピ シ ナ 賓 律 比
産オ ネ ル ボ ル 領 蘭

木材清水港ニ於ケル元祖店

南洋材の用途別

家具建築材料
ベニヤ材料
製函材料
フローリング材料
造船材料
橋梁材料
下駄材料
天井板材料
杭木材料
鉛筆材料

人絹パルプ材料
製紙パルプ材料
木煉瓦材料
燐寸軸木材料



内外木材直移輸入商

大阪政商店

清水市辻旭町

電話 營業用 三八二番 / 自宅 三八三番

米國シンクレア石油會社
日本石油株式會社
淺野物産株式會社礦油部
特約店

ライジングサン石油株式會社

ヤマト商店礦油部

塩澤林藏
清水市江尻新道
電話清水十九番

有限責任

清水市信用組合

清水市相生町 電四七七
清水事務所 電五六七
魚町事務所 電二三六
三保事務所 電七九

静岡縣清水市外北脇五〇〇番地

綾羽クツシタ

株式會社

電話清水一〇一四番

651
32

「駿河年鑑」目次

華灣氏題字

寫眞〔三保海岸の富士、清水市役所
清水港全景、清水港岸壁〕

營業收益稅番附

戸數割納稅番附

沿革

上古……一
中世・近世……二
地勢……三
氣候・土地……四
市街……五
人口……六

交通

通觀……七
清水驛運輸狀況……八
清水港驛運輸狀況……一〇
清水埠頭驛運輸狀況……一一
清水驛職員……一二
靜岡電氣鐵道……一四
仝　會　社……一五
海上交通　清水港……一五
清水—主要港間浬程……一六
昭和十年入港船數……一七
清水港修築事業……一七
渡　船……一九

通信

通　觀……二〇
通信事務取扱數……二〇
郵便局職員……二三
清水局、遞信診療所、簡易保壓健康相談所
江尻局、波止場局、江尻驛前局、本町局、駒越局
三保局、有度局、袖師局、江尻電話中繼所
新聞社並通信部……二七

市政

通　觀……二八

清水市行政區劃……二九
清水市有權者……三一
市財政……三二
清水市十一年度豫算……三三
都市計劃街路事業……三八
耕地、區劃整理事業……三九
上水道……四〇
名譽職員……四一
市會議員、市參事會員、學務委員、土木委員
水道委員、財政調査委員、市稅滯納整理委員
都市計畫評價委員、市勢發展調査委員
都市計畫委員、同靜岡地方委員、出納調査立會人
港灣利用調査委員、家屋稅調査委員
區長並區長代理者……四五
清水市吏員……四七

教育

通觀……五一
教職員……五四
庵原中學、清水商業、清水高女、女子商業
辻小學校、江尻小學校、入江小學校、岡小學校
清水小學校、不二見小學校、駒越小學校
三保小學校
江尻、清水、三保、辻、旭、島崎、清美、入江
各幼稚園
青年學校……六一
教諭並指導員……六三
辻、江尻、入江、清水、不二見、駒越、三保
青年團・處女會・少年團……六五
青年團役員、處女會役員、少年團役員、教育會役員
市立圖書館……六六

社寺

通觀……六七
祭神・由緒・例祭日……六八
寺院一覽……七四
教會所一覽……七六
神職會役員……七八
佛教會、氏子總代會

兵事

通觀……七九
在鄕軍人聯合分會……八一
國防協會・海軍協會……八二
奬兵會・國防婦人會……八三

社會

通觀……八三
市立診療所……八五
公益質舗……八六
法律相談所……八六
職業紹介所……八七
清水市社會事業協會……九二
清水自助館……九三
社會事業團体……九五
方面委員、社會事業協會、日赤委員、
愛國婦人會、主婦會、救護委員

衛生

通觀……九七
傳染病調査……九八
火葬場使用數……一〇〇
清水市醫師會……一〇一
醫師會診療所、清水市庵原郡齒科醫師會
清水市產婆會、看護婦會、學校看護婦、更生病院

警備

通觀……一〇六
犯罪及變死……一〇六
火災統計……一〇七
清水市消防組組織……一〇八
清水警察署……一一一
清水水上警察署……一一一
清水市消防組……一一三

產業

通觀……一二四
商工業……一二六
工業會社……一二七
商業會社……一二九

運輸業會社……一三二
銀行業會社……一三三
工場、會社……一三三
清水食品、豐年製油、綾羽クツシタ、巴川製紙所
東洋製罐、三保造船所、伊藤鐵工所、金指造船所
櫻田罐詰、櫻田化學、清水冷凍製氷
會　社・商店……一三八
鈴與商店、日本鮪共販、清水運送、清水倉庫
三井物產、青木運送、三菱鑛業、山明商事
天野回漕店、淺野商店、北村回漕店、大木回漕店
早川回漕店、丸吉回漕店、ハツピータクシー
清水保險代辨、富安合名
電　氣・瓦斯……一三五
東電清水出張所、清水瓦斯株式會社
金　融……一三九
銀　行・其　他……一四一
駿州銀行、駿河銀行清水支店、同入江支店
同清水驛支店、三十五銀行清水支店、同志茂町支店
同江尻支店、伊豆銀行清水支店、駿河無盡清水出張所
西遠無盡清水出張所、清水市信用組合、不二見實行社
木　材……一四七
木材檢査實施要項……一四九
製材製函販賣業……一五一
原木販賣業……一五四
木材保管業……一五六
木、製材會社・商店……一五六
清水木材、清港木材、北海木材、龍東材木
清水木材倉庫、天龍製材、望月貞策商店
秋田木材、增田商事
清水商工會議所……一五八
議員選擧有權者……一五八
商工會議所議員……一五九
二十日會……一六〇
水　產……一六〇
靜岡縣水產試驗場、罐詰檢査所
清水市水產會、漁業組合
農　業……一六三
農產物……一六四
畜　產……一六六
林　產……一六六
清水市農會……一六七
縣下罐詰業……一六八
縣下罐詰製造工場……一六九

貿　易

通　觀……一七三
出入港船……一七三
十ヶ年貿易統計……一七五
輸　出……一七五
輸　入……一七八
移　出……一七九
移　入……一八四

觀　光

通　觀……一九一
名勝案內……一九一
遊覽コース……一九七
祝祭日……一九八
釣りの清水……一九九
黑鯛釣り案內……二〇〇
清水市保勝會……二〇二

官公署

靜岡縣廳……二〇三
清水港……二〇三
清水港修築事務所……二〇四
橫濱稅關清水支署……二〇四
名古屋地方專賣局出張所……二〇四
海事部出張所……二〇五
靜岡區裁判所出張所……二〇五
茶聯清水檢査所……二〇五
中央氣象臺三保出張所……二〇五

各種組合

靜岡縣東亞輸出組合……二〇五
東海蜜柑罐詰工業、縣石炭商、清水港木材商
清水鐵工業、清水自動車商工、土木建築請負業
電動力使用、專門店會、和洋家具商工、自動車業
ラヂオ商、洋服商、靴商、清睦會、旅館、灣米協會
釣具貸船、縣購聯、薪炭商

庵原郡

通　觀……二一六
郡下町村人口……二一七

町村長、議員……二一八
内房、松野、兩河内、小島、富士川、蒲原、由比
興津、庵原、袖師、飯田、高部、西奈
町村會議員選擧日……二二三
各種團体……二二三
町村長會、小學校長、在鄕軍人、青年團
驛長、公設消防
各種團体・分團長……二二四
庵原郡寺院一覽……二二五
銀　行……二二九
興津三五、靜岡銀行興津、伊豆銀行蒲原
各種組合……二二九
實業團體、畜産、木炭、花卉、農會、茶業
柑橘、飯田信組

富士郡

通　觀……二三一
町村吏員並議員……二三二
大宮、富士、鷹岡、吉原、島田、傳法、今泉
原田、須津、吉永、岩松、田子浦
町村會議員選擧日割……二三八
官公署……二三八
大宮署、吉原署富士出張所、大宮局、富士局
鷹岡局、田子浦局、岩松局、沼川改良事務所
農産物檢査所
會社・銀行……二四〇
身延鐵道、富士自動車、王子製紙、富士纖維
大正工業、信友社、駿河銀行富士、同入山瀬
三五吉原、駿河吉原、伊豆吉原
富士郡町村長……二四三
富士郡南部工業一覽……二四四
教職員……二四七
富士中、富士南、富士高女、富士見高女
實踐女學校、簿記珠算塾、大芝裁縫、小學校長
各種團體・組合……二五〇
醫師會……二五三
スポーツ
アスレチツク……二五四
備　考

沿革

上古

近來鄕土研究は各地共盛んに行はれて居り、古代文化の探究は漸く一般的にも興味を持たれて來たが、特に土地開發に依つて續々現れる出土品については關心を持つ者多く、清水市地方としては日本平を中心に有度山の研究は可成り以前より專門的にも趣味的にも相當深く行はれて居るので、有度山西部の小鹿、大谷等は既に研究が積まれ又考證的出土品も多く發見され、一昨年來有度村より清水市にかけての研究が興味の中心に移つて居る。

清水市に於ては昭和九年度より市史編纂課が設けられ專ら上古の研究調査を進め、古代に於ける清水市の住民と生活を鮮明にす可く資料蒐集中であつたが、研究開始以來一ヶ年を閲し漸く基礎を固め顧問たる帝室博物館監査官後藤守一氏の來清を乞ひ、清水市を中心に附近の實地調査を行つた結果、本地方の古代文化は相當に開けて居た事が色々の遺物や出土物に依つて判明するに至つた。夫れに依れば最近研究家の興味をひいてゐる飯田村高橋附近から彌生式時の器の完全なるものが發掘される事は、此の地方としては珍しい事で、或ひは此の邊が古代住民の相當大きい聚樂地ではなかつたかと想像され、又時代は少し降るが狐ケ崎附近有度村馬走り瓦谷からは布目瓦が多數出るが此の瓦の模樣からみて瓦としては古い時代の物に屬し恐らくは飛鳥朝時代迄昇るものと見られ、斯くすれば古代の瓦中最古のものとなる譯で、此の個所が當時の瓦燒竈の跡であつたと思はれ從つて庵原方面から發掘さ

れる瓦は其の模様と同一なる點から、此處で燒かれたものゝ如くである。尙日本平の上からは石器時代の遺物が發見され、三保からは古墳が出る等綜合して見れば、清水市並附近の古代は文化の中心地だつたと推定される。

中世

上古の考證に徵しても清水市の沿革は遠く古代より東海に於ける政治經濟の要地として發達したものゝ如くであるが、日本武尊東征の際、御穗神社に官幣を供せられ又、辻の矢倉神社の緣起、市の西郊草薙神社に垂蹟せられし等、其鎭東の策源地たりしを思ふべく、降て齋明天皇の朝に百濟救護の爲新羅を征せんとして、當國に勅して船を造らしめ、蘆原君に命じ、兵を卒ゐて渡航せしめられたる如き旣に工藝の進步產業の開發を推度すべきである。爾後清見に關を置かれし事蹟、平の維盛の富士川に出陣せし、今川氏の江尻に築城せるより、武田氏の之を改築し、更に淸水に城砦を造營せる又豐臣秀吉小田原に北條氏を討伐せしの際は、大に軍需品を此地に集め、巨船を浮べて兵站の基點とし、德川氏政權を執るの初期に於ては、清水港を水軍の根據地となせる等、歷史の史實當地の要地樞軸たるを示さゞるはない。

近世

明治四年地方區劃の法を定め、同五年九月之れを改正して、庵原郡を第三大區とし、辻、江尻は第四小區に編せられ、有度郡は第四大區にして、清水其他の町村は第二小區に屬した當時の制は大區に區長を置き、小區に副區長を駐め各町村の戶長には、從來の庄屋、名主、年寄を當て、町頭、百姓代

表を以て副戶長としたのである。

明治十二年區制を廢し、郡役所を設け、巴川北岸の地は庵原郡役所に、其南岸の地は有度、安倍郡役所の所管だつたが、明治廿九年九月、有度郡の廢せられてより。安倍郡に屬する事となつた。

明治廿二年同町村制施行と同時に、庵原郡江尻宿、江尻出作、辻村を以て江尻町を置き、安倍郡入江町、元追分、上清水、を入江町と定め、同郡清水町及び清水受新田、入江受新田を以て清水町とし、船越、北矢部、南矢部、下清水、村松、宮加三、駒越、增、蛇塚の各村を併せて、不二見村とし、三保村、折戶村を合して、三保村と爲し、各々自治躰を構成したが、明治廿六年四月、江尻町の內辻を分割して、辻村を置き。大正七年八月辻村に町制を布くに至つた。越へて大正十三年一月卅一日庵原郡江尻町辻町を安倍郡入江町に編入、仝年二月十一日紀元の佳節を卜し、安倍郡入江町、清水町、不二見村、三保村を以て清水市とし、市制を施行、以て今日に至つて居るのである。

地勢

清水市は靜岡縣の略中央に位し、又東海の中央駿河灣に面した北緯三十五度零分五十二秒、東經百三十八度三十一分二十秒に在り、東西一里六町、南北二里三町、面積一千六百八十五方里を擁する平坦なる地域にして、西に有度山を負ひ、北に龍爪山、赤石の連峯を眺望し、北東には靈峯富士を仰ぎ北より南に伊豆半島蜿蜒起伏して風光絕住、港灣清水の發展と共に市域は漸次後方に廣まり市村の境界は辨じ難き程である。

氣候

駿河國は古來より東邦に於ける最も溫和なる氣候に依つて知られて居るが、清水は特に駿河一の快適と稱されて居り、海山の爽氣に伴つて空氣は極めて清澄、寒暑の激變を感ずる事は殆ど無い。風位は平均南南西毎秒二、七米　氣溫は年平均一五、六度　氣壓は七六〇、三を示して居る。

土地

清水市の面積は一、六八五方里であるが、此の內宅地は昭和十一年一月一日現在調で八十八萬六千四百三十九坪あり、其他は田畑、山林、原野、池沼、雜種地に屬して居る。而して宅地は前年調たる八十八萬三千五百二十八坪に比して民有地六百七十三坪、市有地百坪、縣有地二千百二十八坪、合計二十九百一坪の增加になつて居るが、これは市勢の發展に伴つて田畑が宅地に變更される爲で縣有宅地の激增は埋立地の宅地化に依るものである。十一年一月現在の各種地は左の如し。

所有別	種別	反別	賃貸價格
民有有租地	田	四六九町五反五畝一九歩五〇	一五三、七一〇圓五〇
	畑	七二八町七反四畝一六歩五八	一一七、四六七圓
	宅地	八七七、五〇一坪二二	七一四、八〇二圓九一
	山林	四四八町三反七畝八歩	八、一二七圓三〇
	原野	一六町五畝一九歩	一一三圓五一
	池沼	五町五反四畝七歩	二八一圓〇四
	雜種地	一〇町二反一畝二五歩	九、三七九圓五三
市有有租地	田	九畝一五歩	三五圓九二
	畑	五反一畝二九歩五八	一〇四圓〇七
	宅地	五、八一三坪五二	一〇、三四七圓二四
	雜種地	一町六反八畝二一歩	八〇圓九四
縣有有租地	宅地	三、一二五坪〇三	三、八二五圓五九
	雜種地	一町七反九畝六歩	一、六四〇圓一三

市街

清水市は舊六ケ町村名を以て大字と爲し、漸次後方地帶の發展に伴つて町名を增加し、現在七十六町に達して居るが各方面の耕地整理の完成から宅地は年々增加して市街地は新地帶へ延びて行く狀態にあり、擴大せる町は適當に分割されて新しき町を產んで更に擴大しつゝ無限の增大力を持つて居る。

辻　——相生町、旭町、島崎、新道、末廣町、眞砂町、中濱町、大和町、愛染町、本町、壽町、辻本町、深崎町、綠町、江川町、矢倉町、住吉町、田町、宮下町、常盤町、吉添町

江尻——本鄕、鍛治町、鑄物師町、傳馬町、巴町、七軒町、志茂町、仲町、魚町、紺屋町、小芝町、小芝町二ノ丸、小芝町三丁目、大手町、宮代町

入江——入江町(一丁目—三丁目)、元城町、大曲、元追分、櫻橋町、櫻ケ丘町、新富町、榮町、岡、上清水、橫濱町、片羽

清水——上町(一丁目—三丁目)、本町、袋町、新魚町、本魚町、中町、美濃輪町、松井町、萬世町(一丁目—二丁目)、松原町(一丁目—三丁目)、富士見町(一丁目—二丁目)、入船町

（一丁目—三丁目）、港町（一丁目—四丁目）、築地町（一丁目—三丁目）、日ノ出町（一丁目—二丁目）、新港町

不二見——下清水、船越、船越町、南矢部、北矢部、幸町、村松（原、中、南、妙音寺）、宮加三、駒越、増、蛇塚

三　保——本村、宮方、塚間、折戸

人　口

昭和十年十月一日全國一齊に施行せる國勢調査の結果に依れば、本市の世帶數は一萬一千六百二十九戸總人口六萬一千百二十三人中男は三萬七百六十一人にして女は三萬三百六十二人となり、昭和五年に施行された國勢調査數たる戸數一〇、七三七戸、人口五五、六六五人に比すれば戸數八百九十二戸、人口五千四百五十九人の増加となつて居る。尙ほ昭和十一年一月以降七月末日迄の死亡者累計は五百六十三人で、一日平均死亡率は二人半の割合となり一方出生率は一日平均六人となつてゐるので本市の人口増加は一日三人半となる譯である。過去五ケ年の人口動態は左の如し。

年度	世帶數	現在人口 男	現在人口 女	現在人口 計	本籍人口動態 婚姻	離婚	出生	死亡	死産
昭和十年	一二、五三三	三二、四九八	三二、〇五五	六四、五五三	五九七	五七	一、五九九	七三一	九五
昭和九年	一二、三四二	三二、九九二	三一、一四七	六三、一三九	六一八	五三	一、五八三	八一二	一〇二
昭和八年	一二、一五六	三一、三二八	三〇、四六七	六一、六九五	五一〇	六一	一、六〇五	八二三	一〇三
昭和七年	一二、七六六	三〇、六六一	二九、九二八	六〇、五八九	五一九	五七	一、五九〇	七五七	一〇〇
昭和六年	一二、四五八	三〇、〇〇六	二九、二九〇	五九、二六六	三五三	四六	一、五九二	七二三	一〇八

交　通

通　觀

本市の交通は水陸兩方面に發達し、東海の良港清水港からは歐米各國、南洋、滿支、國内各港と連絡し、陸路は國道一號線、國鐵、電鐵等に依つて四通八達し、清水驛は市勢の發展に伴つて近年著しき飛躍をなし、特に急行列車の停車數の増加された事は清水市交通史の華やかなる一頁を飾るものである。更に清水驛より三保貝島の縣營埋立地に至る臨港線の延長計劃もあり、又市内バス網に加へて市當局では清水驛を起點として三保、日本平、狐ケ崎三線の市營バスの許可を申請中であり、これ等が實現した曉は本市の面目は全く一新されよう。

道　路

國道 路線	延長	縣道 路線	延長	市道 路線	延長
一	三、九二一、八一米	七	二〇、二三〇米	九〇七	二五七、七五七、七三米

諸車

年次	自動車	トラック	自轉車	オートバイ	人力車	諸車	計
昭和十年	九四	一二	七、〇三〇	七二	二五	二、一四一	九、四七三
昭和九年	八三	八八	六、七二〇	五四	二九	二、二四三	九、三四〇

清水驛

昭和十年度清水驛勢並收入を見るに一日平均の乘降人員は三、四九三人、入場人員一一四人、手小荷物個數四二五個、新聞雜誌個數一七四個、貨物通知書枚數四二一枚、貨車數四一九を示し、年計に依る貨物瓲數は發送三五二、九九五瓲、到着六〇、一七一瓲、計四一三、一六六瓲となり收入は旅客三三九、七一三圓、貨物一、一四四、二四三圓、計一、四三三、九五六圓となり名古屋鐵道局管內の順位は乘車人員二三位、貨物發送三位、旅客收入一七位、貨物收入二位、總收入八位を示し名鐵局管內重要驛となつて居る。十年度清水三驛の運輸成績は左の如し。

種別	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）	増減
乘車人員	六三九、四三二	五九九、八九八	三九、五三四	
降車人員	六三九、〇八九	五九七、三九六	四一、六九三	
旅客運賃	三一七、八二八	二八一、一六〇	三六、六六八	
手小荷物發送	七六、四七九	七二、八七二	三、六〇七	
手小荷物到着	一二六、五二七	一二〇、五〇四	△	六、〇二三
手小荷物運賃	二一、八八五	二二、二八四		三九九
旅客收入	三三九、七一三	三〇三、四四四		三六、二六九
貨物發送瓲數	三五二、九九五	三四二、九五五		一〇、〇四〇
貨物到着瓲數	六〇、一七一	五八、三三二		一、八三九
使用車數	三八、四八八	三七、〇七一		一、四一七
貨物收入	一、一四四、二四三	一、〇六四、八五五		七九、三八八
總收入	一、四八三、九五六	一、三六八、二九九		一一五、六五七
主要貨物發瓲數 肥料	一一八、七三六	一一九、九七九	△	一、二四三
木材	五二、八七五	六八、八五五	△	一五、九八〇
石炭	八九、〇一四	六九、九六三		一九、〇五一
大豆油	二一、五八三	二三、一七五	△	一、五九二
野菜	三、八九七	四、九八八	△	一、〇九一
柑橘	三七、〇〇七	二四、九三七		一二、〇七〇
其他果物	七六四	二、一一一	△	一、三四七
和洋紙	四、六九〇	四、二〇四		四八六
鮮魚	一、五二八	二、〇八五	△	五五七

清水港驛

主要貨物到着瓲數	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
藁製品	七、六四四	九、八六五	△
鐵製品	三、四九一	四、四二八	△
米	四、三八四	二、三九五	
石油類	二、三一五	二、八三七	△
木材	一四、八八九	一二、〇九七	
麥	四八八	三九一	
肥料	一、九〇四	一、一一四	

主要貨物發	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
肥料	一四、二八三	九、二九二	
木材	八五、二五六	九八、一八三	△
石炭	六四、一一八	五五、七七〇	
パルプ	九、六五〇	一、六三二	

發送瓲數	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
到着瓲數	二一〇、二一九	二〇五、一七五	五、〇四四
使用車	三八、七九九	三三、三二四	五、四七五
收入	一六、七三六	一六、一七一	五六五
	三二七、八一六	三六一、四一八	△ 三三、六〇二

清水埠頭驛

發送瓲數	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
米	四、六五四	二、八三〇	
セメント	三、五八二	一、一六〇	
食塩	一二、一八八	一一、五四五	
大豆	一、四三八	一、三二九	
飼料	一、五三三	三、六二一	△
薪	一、六九三	二、七一八	△

發送瓲數	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
肥料	七、一三二	六、六九四	
木材	四三〇	六七〇	△
石炭	一一、〇七六	一三、八九六	△
パルプ	九、八一〇	四、八一三	
米	九、五七六	一六、四一九	△
セメント	四八、八九五	二二、六二三	

發送瓲數	昭和十年度	昭和九年度	比較（△印減）
到着瓲數	一二一、六六四	九四、〇三七	二七、六二七
使用車	一四、四五一	一〇、三九二	四、〇五九
收入	一〇、二九五	八、二一〇	二、〇八五
	二四八、四七二	一六五、七九八	八二、六七四

送賦數		主要貨物到着賦數		
食塩	一一、四六八	藁製品	一〇六	
大豆	一、八七五	鐵製品	一、九一七	
砂糖	三、八〇八	米	一、〇二二	
飼料	二、〇七三	石油類	九四	
		木材	三、一六六	
		麥	三一〇	
		肥料	三、一四〇	
	一二、六八五		七二	
	一、五四四		一、〇〇四	
	一、七七五		一、二九九	
	三、四四七		一六六	
	△		△	
			一、三一三	
			△	
			四七一	
			△	
			二、六〇一	
	一、二一七		三四	前田金次郎
	三三一		九一三	原田綱藏
	二、〇三三		二七七	漆畑清次郎
	一、三七四		七二	鈴木總夫
			一四七	曾根晃
			一六一	池上清太郎
			五三九	

清水驛職員

（電話一八四番）

從七位勳八等	驛長	小林直次	
書記助役	浦田晉吉		
助役	山梨勉一		
助役	松田源太郎		
助役	太田長治		
貨物係主任	萩原宜弍		
出札掛主任	長谷川松太郎		
小荷物掛主任	加藤瀧		
庶務係	川口金吾		
貨物係	山田金作		
鐵道手	杉山良作		

杉山彦	望月新作	市川由藏	
古谷直	赤堀丈之助	鈴木岩太郎	
伊藤政敏	佐野茂三郎	飯田彦太郎	
望月鄰太郎	望月千代松	渡邊良吉	
齋藤豐廣	藤浪恭一	大箸虎之祐	
杉山憲二	津田治作	渡邊由藏	
松田金太郎	鹽澤傳一	杉山金藏	
川口寅吉	朝倉友治	天野由藏	
川合博	志知爲次郎	鈴木秀吉	
遠藤甲子次	增井岩吉	佐藤喜一郎	
增田友次郎	有賀與喜藏	佐野慶次郎	
杉本一夫	坂野武	望月大作	
鶴田良平	岩堀誠一	久保田清次郎	
中込悅三	鈴木佐一郎	村松新太郎	
永井富士太郎	山本積	櫻井久雄	
原田安次郎	瀧一郎	岡部大次郎	
川崎藤平	坂本淳一	小泉新平	
佐藤竹次郎	山本時雄	中西增一	
三浦久	中村政雄	千葉武雄	

原科光一　小野登
石原八郎　伏見榮太郎　大塚伊太郎
桑原重雄　鈴井千代吉　小林靖

清水港驛（電話二八三）

助役　薄井政治　石井信吉　望月銀次
書記　三ツ松明　奥山庄太郎　岩崎態藏
鐵道手　深澤熊一郎　八木安次郎　杉山喜十

靜岡電氣鐵道

靜岡電氣鐵道は靜岡、清水兩市の連鎖となり、靜岡市の安西を起點として清水市清水波止場を終點とするもので、靜岡呉服町停留場より清水相生町停留場迄の復線計劃が完成して所要時間も著しく短縮し、又清水市内は港橋より本線と相生町で交叉し、國鐵を跨線橋で通過して市外袖師村横砂に至る一線を運轉して清水市陸上交通の重要機關となつて居る外、同社經營に依るバス線は全市に發達して居る。

最近三ケ年の乘客數は左の如し。

	昭和十年	昭和九年	昭和八年
電車乘客數	六、九五五、六八三人	六、一六一、二六二	五、一一五、九四一

靜岡電氣鐵道株式會社（電話靜岡五五〇・六五〇番）

社長　大川平太郎　營業課長　三宅高次　車輛主任　山田紋太郎
副社長　織田信恒　技術課長　岡田傳次郎　秋葉線主任　金山一郎
專務取締役　穴澤清次郎　庶務主任　石卷智　發電所主任　後藤三策
常務取締役　戸塚昌宏　用度主任　森田虎二　電燈主任　杉山信次
取締役　鈴木與平　會計主任　吉田整司　遊園主任　新村杏太郎
仝　足立純一郎　運輸主任兼土木主任　井上天次　野球場主任　鄕豊
監査役　中村嘉十　自動車主任　矢吹正市
仝　磯野新藏　電氣主任　井上惣一

海上交通

清水港

清水港は東海の中樞太平洋の要衝に位し、絶勝三保の岬は自然の防波堤をなし、港内波靜かに水深く天然の良港なると共に港背の地域も頗る廣汎にして國鐵東海道本線並臨港線、國道一號線を控へて水陸相連絡し繫船陸上兩設備と相俟つて交通至便であるが、最近縣市當局を始め商工會議所等も清水港の利用向上に努力を拂ひ、清水市會には調査委員會あり、商工會議所には「二十日會」が組織されて夫々の立場より本港の發展策を考究して居る。尙ほ臨港線は三保貝島迄延長して清水港の發展を援

けんとして本省へ猛運動中であり、又清水港利用を目的として各種の工場が建設されつゝある事は本港の將來を益々輝しくせしめるものである。

清水燈臺

三保眞崎にある清水燈臺は通稱大鼻燈臺と云ひ、北緯三十五度、東經百三十八度三十二分に位し、燈質は連閃白光で毎十五秒を隔て五秒間に二閃光を發し、明弧は百五十二度より十七度迄、光達距離は十四浬に及ぶ四萬五千燭光である

清水——主要港間浬程

下田	四五哩	門司（瀬戸内海經由）	五〇六哩
横濱	一〇八	釜山	五九〇
東京	一一九	清津	九五四
青森	六一〇	大連（瀬戸内海經由）	一、一二〇
函館	五九二	上海	九六一
室蘭	五九四	基隆	一、〇七〇
小樽	七六四	高雄	一、二九〇
大泊	九三一	浦潮	一、〇三九
留萌	七九四	桑港（横濱經由）	四、〇三九
名古屋	一二七	晩香坡（〃）	三、〇六三
四日市	一二二	ホノルル（〃）	三、五〇〇
大阪	二八三	沙市（〃）	四、三六七
神戸	二八〇		

昭和十年度月別入港船數

月別	外國航路 隻數	外國航路 總噸數	外國航路 登簿噸數	内國航路 隻數	内國航路 總噸數	内國航路 登簿噸數	合計 隻數	合計 總噸數	合計 登簿噸數
一	二五	九六、八九九	一五三、七五二	四六	七八、八二六	一二五、〇九八	七一	一七五、七二五	二七八、八五〇
二	二〇	七一、六七五	一一五、八五七	五〇	七七、一一七	一二一、一九二	七〇	一四八、七九二	二三七、〇四九
三	二〇	一一一、一二四	一八〇、三七一	五七	八九、二二五	一四一、三六九	八七	二〇〇、三四九	三二一、七四〇
四	二六	九八、六八六	一六三、九七七	六七	一一四、四九九	一七六、九〇七	九三	二一三、一八五	三四〇、九〇四
五	二九	一二〇、〇一八	一九一、一四五	六二	一〇三、五五五	一六二、〇三五	九一	二二三、五七三	三五三、一八〇
六	二九	一三六、四七〇	二二五、三二九	七四	一四五、八四三	二二五、一二五	一〇三	二八二、三一三	四五〇、四五四
七	三五	一四〇、二五六	二二八、九五九	六五	一三七、三六五	二一五、七一六	一〇〇	二七七、六二一	四四四、三七五
八	二八	一七一、六三九	二八三、九二三	七五	一五〇、一三一	二三二、六七三	一一三	三二一、七七〇	五一六、五九六
九	二六	一五九、一三四	二六三、九七六	六九	一二六、六八六	一九七、七六九	一〇五	二八五、八一〇	四六一、七四五
十	二九	一七二、〇四〇	二七八、四六二	六二	一一六、六〇三	一七八、八六九	一〇一	二八八、六四二	四五七、三三一
十一	三三	一三二、二四三	二三〇、九八三	六四	一二〇、五五八	一八一、〇二七	九七	二五二、八〇一	四〇二、〇一〇
十二	二六	一五一、七一六	二四二、七四六	七四	一三〇、六五二	二〇九、六九四	一一〇	二八二、三六八	四五二、四四〇
計	二七六	一、五六一、九〇〇	二、五四九、一〇〇	七六五	一、三九一、〇五九	二、一六七、四七四	一、一四一	二、九五二、九五九	四、七一六、六七四

清水港修築事業

内務省では第二種重要港灣たる清水港に對し、豫算百八十萬圓を以て昭和四年より昭和九年に至る

六ケ年計劃を以つて修築工事を施したが、豫定年度内に伊豆地方の震災に依つて既成個所を破壞せるを以て計劃通りの事業を遂行し得ず一先づ打切られんとしたが、縣市兩當局では未完成の儘放棄されては遺憾であるとて繼續方を陳情して昭和十年度二十萬圓の豫算を計上されて事業を繼續中、再び靜清地方の震災にて三千噸級繫船岸壁七七〇米を崩壞したる爲、内務省當局に於ては從來の護岸技術を根本的に變更して斯界の權威者を網羅せる調査會の設計になる耐震工事を施す事になり、復舊豫算三十八萬圓を以て昭和十一年度より昭和十三年度に至る三ケ年繼續事業として進行中である。依つて前年度迄の修築事業は十年度を以て打切りとなつたが、未完成の折戸灣内繫船浮標四個（各一萬圓）の設置は縣當局が施行する筈である。清水港修築事業の明細は左の如し。

工事期間	工費	現在	備考
自大正十年至昭和九年	五、五〇〇、〇〇〇圓	完成	靜岡縣工事
仝	四、八五〇、〇〇〇	仝	鐵道省經營岸壁工事
仝	六七、〇〇〇	仝	縣營貝島埋立工事
自大正十五年	二、〇〇〇、〇〇〇	進行中	陸上諸設備
自昭和二年	四五〇、〇〇〇	完成	貯木場新設工事
自昭和四年至昭和十年	一、八〇〇、〇〇〇	打切	帝國議會の協賛を經たる擴張工事
自昭和六年至昭和八年	六三〇、〇〇〇	完成	震災復舊工事
自昭和十一年至昭和十三年	三八〇、〇〇〇	進行中	仝
計	二、九二二、〇〇〇		

清水港乘降船客

	内航船	内國ノ外航船	外國船	合計
乘船客	一、〇八六	八二	〇	一、一六八
降船客	一、〇一四	三七	〇	一、〇五一

渡船

三保方面との交通は昭和十一年度内に縣道折戸三保線が完成するので大いに便利になり、市營バスも計劃されて居るが最短距離は渡船を利用する海上交通で、現在清水灣の巡航船は港橋—折戸、清水波止場—三保本村、清水波止場—塚間、江尻波止場—三保本村の民間四航路がある外、松井町—塚間渡船は市營に依つて運轉され、左の如き交通量を示して居るが、市營渡船は學生、團体等の無料船客が多く、これを通算すれば七十萬人の數に達す可く民間渡船量も數十萬人に及んで居る。

市營渡船交通量	乘船人員	諸車	切符賣上
昭和十年	五五五、〇〇〇人	二九、〇〇〇臺	八、〇七〇圓
昭和九年	五五八、一六四人	三五、〇〇四臺	八、〇八〇圓
昭和八年	五五六、三四三人	三四、一五八臺	八、三二〇圓

通　信

通　觀

清水郵便局では市勢の發展と共に年々通信施設を擴充して居るが、昭和十一年三月からは市内一圓の郵便物取集並遞送には自動車二臺を使用すると共に集配の回數を增加し、又六月からは市外袖師村嶺及西久保は清水局電話特別加入區域の爲加入者は電話線接續料及附加使用料を納付して居たものを普通加入區域に編入し、一方には觀光都市としての通信施設をも考慮して名勝地日本平登山者の爲に山頂へ郵便ポストを設置、又鐵舟寺、龍華寺に杖をひく客の便を圖る可く近く鐵舟寺前妙音寺地内へ公衆電話を設置する事になつて居る等、大いに通信網の充實に努めつゝあるが其の躍進振りは左の統計に見るも明かである。

清水郵便局	管内三等局	電話加入數	公衆電話	ポスト
	八	一、二四八	四	七四

郵便取扱數

	通常郵便物	特殊郵便物	小包郵便物	合計
引受數				
配達數				
引受數				
配達數				
引受數				
配達數				

電報取扱數

	內國電報			外國電報		
	發信	着信	中繼	發信	着信	
昭和十年度	二、八九二、九五七	四、〇五六、〇二三	四〇、三九六	七、九五八	一四、五〇六	五三、六六五	二、九四七、八五九	四、一一七、六四五
昭和九年度	二、八五八、九二八	四、二二五、三二七	二八四、五七六	一〇〇、五九〇	一四、九一七	五一、〇三三	三、一五八、二二八	四、三七六、九五〇

電話取扱數

	發信	着信	中繼	發信	着信	
昭和十年度	四五、六一九	一二〇、二三三	三四、二〇八	二五七	三一〇	
昭和九年度	三九、二七七	九九、二八一	二五、一八七	二七四	三四一	

清水驛公衆電報取扱數

	市内通話數	市外通話數	合計
昭和十年度	七、〇三八、九三三	五二七、四七九	七、五六六、四一二
昭和九年度	六、七三〇、三〇六	四五八、七四五	七、一八九、〇五一
昭和八年度	五、六九六、七五四	四三四、七五九	六、一三一、五一三

郵便局職員

	受付數	電報料
昭和十年度	一三、四三五	五、〇五二、円七四
昭和九年度	一一、九三九	四、四一八、九九
昭和八年度	一〇、一四六	三、六七八、五一

清水郵便局

從七位勳七等 局長 山森一雄
勳八等 主事 羽田鑒
仝 大村金作
仝 和田正市
仝 小澤金太郎
仝 人見重三
正八位 仝 山口芳朗
仝 神谷關太郎

【郵便部】

主任 望月改造
取締 朝倉辰藏
主任 河村金一
仝 出口錠次郎
仝 大杉金作
仝 望月大作
仝 杉山正作
仝 小野田憲
仝 杉山三郎
仝 望月謹圖
仝 酒井四郎
仝 望月昶
仝 杉山正
仝 望月周吉
仝 杉山行治
仝 岩崎勇吉
仝 竹澤平吉
取締 山本新次郎
仝 千葉金太郎
仝 大瀧常吉
仝 渡邊由雄
仝 大西寅三郎
仝 辻藤左衛門
仝 栗田文夫
仝 千葉鉦司

仝 岩崎寅吉
仝 丹所熊次郎
仝 鈴木平作
仝 鍋田喜代志
仝 青木正雄
仝 青木敏雄
仝 平井紋太郎
仝 今井政男
仝 小林正志
仝 平井才次郎
仝 平井武平
仝 平井銀作
仝 高木忠男
仝 千葉久雄
仝 片瀬政吉
仝 小松一郎
仝 石田惠志

【電信部】

主任 永田友吉
主任 榊原由雄
仝 出島新一
仝 若杉政吉
仝 大石廉治

【爲替部】

主任 淺羽信吉
仝 高田清吉
仝 大草正朗
仝 井柳幸一

【保險部】

主任 宇田幸之丞
仝 瀧興作
外勤主任 小栗仲吉
仝 渡邊孝作
仝 佐野長作
仝 高橋長吉
仝 尾原岩次郎
仝 杉山吉造
仝 渡邊正夫
仝 山田正一
仝 長谷川光男
仝 池上壽郎
仝 望月貞甫
仝 大草正朗
仝 稲葉吉三郎
仝 山田一男
仝 石川伊兵衛
仝 大瀧辰己
仝 杉山千代松
仝 岩崎實
仝 小松良作
仝 堀場惣一
仝 滿井正次郎
仝 望月義太郎
仝 千葉七郎
仝 森川三雄

勳八取締
堀井榮作
鈴木鉀三郎
齋藤彌三郎
鈴井武治
鍋田金次郎
丹所佐太郎
武井源吾丞
粉川金太郎
勳八
大石數雄
太田榮一
鍋田清十
大石新作
村上武雄

【庶務部】

主任 望月萬歳一
原武夫
佐野清
大關勝弘

堀池良夫
小川清司
幾見儀三郎
望月清作
堀松藏
望月德藏
下山よね
杉山ます
石ケ谷勝利
山梨茂

【電話加入部】

主任 鳥居末吉
片瀨正治
監視員 望月音吉
杉山多起夫
仝 田村辰次

【電話部】

後藤やゑ
柴田しん
青木はな

入海あい
桑原さく
堀池ちゑ子
入海まつ
大澤延榮
村岡はつ
池田照子
石ケ谷うめ
成岡千代
太田千代子
綾部富子
增田ひで
坂倉はな
石ケ谷イト
桑原ふじ
太田たき子
奥山衛
吉川房枝
小川いと

糠谷かよ
堀はつ
太田みよ
杉山なみ
渡邊千代
安田茂子
立石きく
杉山トシ
平岡松江
太田くみ
瀧本たつ
佐藤房野
池上さま
櫻田初子
中川文
櫻井ふじ
長阪ちよ子
山本美枝
千葉いよ

杉山雪枝
杉山ふじ
石川あい
土屋登志
成岡かをる
岡澤とみ
岡本久江
長田俊子
山田まさ
加藤季子
鈴木しげ
加茂松枝
遠藤今
中村芳子
設樂とみゑ
山本ゆく
吉川節子
嶋崎きよ
大石みつ

望月いと
酒井千壽子
松田松枝
鈴木靜枝
水野極江
小林房江
高木とし
清水濱子
松田あい
久保田みつ子
杉山千枝子
長島かつ江
佐野あき
池上房子
中村とき
佐野一之
神山ふさ子
伊藤靜枝
四ツ田サキ

眞　たか
大木トメ子
遠藤はつ
大鹽睦子

清水遞信診療所

囑託醫　欠
看護婦　窪田ちゑ子
事務員　遠藤いの
小使　牧田清作

清水簡易保險健康相談所

囑託醫　野澤廣行
書記補　小田德太郎
看護婦　飯島たみ
仝　杉本きくゑ
小使　大澤藤作

江尻郵便局

（電話八四二番）

局長　木村信三
通信手　岩間松子
通信事務員　河村しげ子
仝　川島隆司
仝　西谷二郎

波止場郵便局

（電話六二〇番）

局長　宮本勝一
通信手　宮本靜枝
通信事務員　稻垣六彦
仝　酒井喜芳
仝　堤信子
仝　大石富子

江尻驛前郵便局

（電話八四四番）

局長　望月文雄
通信事務員　望月しづ江
仝　府川ナオ
仝　川口きよ子

清水本町郵便局

（電話八四三番）

局長　鈴木正平
通信手　鈴本甫子
通信事務員　若杉その江
仝　森まさ江
仝　廣岡はな江
仝　高島喜美

駒越郵便局

（電話一二〇〇番）

局長　齋藤整一郎
通信事務員　齋藤いと
仝　青島せつ

三保郵便局

（電話三保一番）

局長　內藤鐵太郎
通信手　內藤きく
仝　內藤家次
通信事務員　堤坂鶴次
仝　內藤かほる
仝　遠藤千代
仝　遠藤ヒサエ
仝　石野道
仝　望月ゆき江

有度郵便局

（電話有度一番）

局長　川端千代作
通信事務員　青野ゆき
仝　川端たい
仝　川端愛子
仝　伊藤美子

袖師郵便局

（電話一一九九番）

局長　小井由作
通信事務員　小長井イマ
仝　千葉智惠子
仝　八木金作

江尻電話中繼所

（電話八三九番）

擔當　宇佐美代吉
　　鎌田阪龜

新聞

清水日日新聞社

（電話七一九番）

社長　若林今朝一
學藝部顧問　石井平一
大宮支局顧問　村瀨茂
客員　常川金七
編輯長　室伏一
編輯部　和田映岳
營業部　杉山茂夫
販賣部　近藤秋男
　　桑原梅作
　　高山博
工場部　後藤政兵
　　大江藏人
　　高木清

工場部　内藤勝太郎
杉山武雄
鈴木一志

志太毎夕新聞社（志太郡燒津町）
社長　若林今朝一
總務　今宿利三郎

東京支局長　牧村一
大阪支局長　太田源一郎
吉原支社長　島忠通
大宮支局長　友成紀男
富士支局長　鈴木清一
燒津支局長　今宿利三郎
靜岡支局長　芦澤豐明
濱松支局長　森英五郎
甲府支局長　山本武彦

靜岡日日新聞社（靜岡市中田町）
社長　若林今朝一
總務　櫨田榮五郎
社員　大池義一

⊙市内新聞社

東海中正新聞社
社長　佐藤文雄

清水毎日新聞社
社長　飯島政一

⊙各社通信部

東京朝日新聞社　速水暢
東京日日新聞社　北野慧
時事新報社　鈴木實
報知新聞社　宮田立志郎
讀賣新聞社　久保田涼
新愛知國民聞新社　羽賀義夫
名古屋新聞社　平山米吉
靜岡新報社　山本弘
靜岡民友新聞社　長谷部清一

市政

通觀

市制施行以來十四ケ年となつた清水市は上水道事業並都市計畫の二大事業を完成し、第二次事業は

豐年製油株式會社清水工場
電話（六〇四／六六〇五／六〇六番）

株式會社　巴川製紙所
電話（六六六／六九八番）
用宗工場　電話　靜岡三二〇九／用宗一〇〇番

保証責任
飯田村信用販賣購買組合
電話清水一一七四番
組合長 片平活太郎
專務理事 松永廣

清水食品會社專屬副產物一手取扱
養鰻飼料
養鷄飼料
魚肥陳皮
製造販賣
鈴木政十
清水市築地町一ノ四二
電話 五一〇番
振替口座東京七〇二八七番
取引銀行 三十五銀行清水支店

ラワン材
北海産
雜木材
家具材料
一式販賣
北川雜木製材所
清水市萬世橋際
電話 六八三番

合資會社
清水青果乾物市場
清水市入江大曲
電話 一、〇〇六番

清水市入船町三ノ二
清港木材株式會社
園電六二四番
電話八二四番

清水市上清水

村岡源次郎

電話一、一三一番

靜岡縣清水市清水驛前

合資會社 望月兄弟商會

電話

十番

四四一二番

四一三番

鈴與商店專屬頭　清睦會

川口定吉
風間米作
村岡源次郎
村上長吉
八木庄作
松下勝太郎

増田伊八
青木福松
澤野乙吉
酒井金太郎
森源八
杉山七藏

（イロハ順）

清水市

秋田木材
株式會社

名古屋支店清水出張員

電話七一四番

清水市辻一二五三番地

清水瓦斯株式會社

電話五三三番

ぜひ國產＝蝙蝠印

日本石油株式會社特約店

鈴木油槽所

營業課目

ガソリン・モビール
燈油・輕油
重油・グリス

清水驛前
電話四五八・四五九番

陸舶用デイーゼル機關
陸舶用セミデイーゼル機關
汽機汽鑵
製作並修理

望月鐵工所
電話九八番
自宅 清水市港町二ノ八二

清水市清水
畠山慶吉商店
電話二七七番

静岡縣清水市日ノ出町一ノ二〇

必要に迫られる迄當分見合せて昭和十二年度よりは專ら事業施行圏内に於ける市勢の發展に努める事になつて居る。即ち都市計畫路線を幹線として耕地整理の慫慂、工場誘致、漁港施設の擴充、觀光施設整備、下水道事業、街路舗裝、清水港利用向上等々幾多の市政問題を順次解決して遺憾なき港灣都市の建設を期して居る。

吏員

清水市は市長、助役、收入役各一名、主事四名、技師二名、書記三十二名、技手十二名、書記補二十四名、技手補二名、雇二十六名、其他合計百六十六名である。

清水市行政區劃

大字	區名	區域	大字	區名	區域
	大手町	小芝町の一部	江尻	紺屋町	
	小芝町	小芝町の一部		志茂町	
	宮代町	小芝町の一部		七軒町	
江尻	小芝町二ノ丸	小芝町の一部		巴町	
	小芝町三丁目	小芝町の一部		傳馬町	
	魚町			鑄物師町	
	仲町			鍛冶町	
				本郷	

入江	入江第一區	入江町一丁目
	入江第二區	入江町二丁目
	入江第三區	入江町三丁目
	元城町	入江町三丁目の一部
	大曲	
	追分	
	新富町	
	榮岡町	
	上清水	横濱町の外一圓
	横濱町	上清水の一部
	片羽	
不二見	船越	
	南矢部	
	下清水	
	北矢部	北矢部の一部
	八千代町	北矢部の一部
	村松	幸町の外一圓
不二見	幸町	村松の一部
	宮加三	
	駒越	
	蛇塚	
	增折戸	
清水	清水一區	上町一丁目
	清水二區	上町二丁目
	清水三區	本町一帶
	清水四區	袋町一帶
	清水五區	新魚町一帶
	清水六區	元魚町一帶
	清水七區	仲町一帶
	清水八區	美濃輪一帶
	清水九區	松井町、清開、中の坪
	清水十區	港町一、二丁目の一部 築地町一、二丁目の一部
	清水十一區	港町二丁目の一部 同三、四丁目全部

清水	清水十二區	富士見町一、二丁目全部 萬世町一、二丁目の一部
	清水十三區	萬世町一、二丁目の一部 松原町一、二、三丁目全部
	清水十四區	入船町一、二、三丁目全部
三保	三保一區	北方池一帶
	三保二區	中通廣道出來輪田
	三保三區	南方の東方面榎窪及大山の一部、宮通の一部
	三保四區	南方の西方面江湖乾尻中側町方面
	宮方	
	塚間	塚間一帶貝島
辻	辻一區	島崎の一部
	辻二區	舊江尻驛より西方新道迄
	辻三區	舊江尻驛より東方新驛脇迄
	辻四區	辻五七六番地々先東西道路附近より新驛に至る附近一帶
	辻五區	辻五七六番地々先東西道路附近より北方一帶
	辻六區	矢倉町及常盤町の一部
	辻七區	吉添町、住吉町及常盤町の一部
	相生	相生町一帶と島崎の一部
	旭町	旭町一帶と島崎の一部

清水市有權者

種別	定員	昭和十年	昭和九年	昭和八年
帝國議會	一	一二、九二八	一一、八五〇	一一、七七一
縣會	二	一一、五九三	一一、五一〇	一一、三二七
市會	三六	一二、四六〇	一一、五一〇	一一、三二七

陪審員	二八	一、四七六	一、四三八
家屋稅調査委員	一八	(十一年)六、三六二	一、三四八

市財政

昭和十年末現在調査に依る清水市の財政を見るに市有財産中宅地五千九百八坪あり、賃貸價格は九千九百九十七圓、基本財産並積立金は二萬七千一圓、有價證券三萬二千五百三十八圓を有して居る。國稅調定格は十九萬八千六百三十二圓八〇錢、縣稅二十八萬八千三百三十一圓二七錢、市稅三十八萬三千九十二圓九五錢を持つて居る。然し乍ら起債元利未償還額は五百六十八萬三千二百十四圓を示して居る。

基本財産及積立金

種別	金額	種別	金額
市基本財産	一、八三七、八四円	火葬場建設費	二、六四七円
小學校基本財産	二〇一、一五	清水港陸上設備費・靜清國道負擔金	三一〇、二〇〇
消防組基本財産	九七九、七九	小學校營繕費	一一六、三四六
記念陳列館建築準備積立金	一、五一七、四五	農村振興土木費	二、二八〇
橋梁準備積立金	三四一、八六	農村振興土木事業費	三、二五〇
特別橋梁準備積立金	二、一二三、八五	失業應急事業費	六四、九〇〇
御大禮記念公會堂建築準備積立金	一、三〇六、五九	縣道改築費負擔金	二、三七九

市債 (昭和十一年九月現在)

種別	金額	種別	金額
仝		特別會計繰入金	四、四〇〇
博覽會準備積立金	二、一四〇、八三	災害復舊費	一、三一〇、〇〇〇
商品陳列館建築準備積立金	四、二八一、六七	舊債整理費	一、二一〇、〇〇〇
圖書館基本金積立金	五七二、〇四	水道費	二、三二九、一七四
吏員給與金積立金	二、三〇〇、二八	都市計畫費	一、八一〇、八二九
兒童就學奬勵資金	一、〇一五、一二	公益質舗費	三三、五三六
罹災救助資金	七、六八四、八〇	郵便局舍費	五四、〇七〇
渡船改造費積立金	一三五、八八		
計	二七、〇〇一、一九	計	五、六八三、二一四

昭和十一年度清水市歲入歲出豫算

歲入

科目	本年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
財産ヨリ生スル收入	八、七〇五	九、九九三	△ 一、二八八	九、九九三	△ 一、二八八
使用料及手數料	五八、七〇三	五六、二一二	二、四九一	五六、二一二	二、四九一
交付金	一二、八九八	一一、八七三	一、〇二五	一一、五三六	一、三六二
國庫下渡金	五五、八〇〇	六四、〇〇〇	△ 八、二〇〇	五四、〇〇〇	一、八〇〇
納付金	八八四	一、〇一二	△ 一二八	七五〇	一三四

歳出（經常部）

科目	本年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
報償金	六、〇〇〇	六、〇〇〇	△	六、〇〇〇	△
國庫補助金	三、三六四	三、七六一	三九七	三、七六一	三九七
縣補助金	一四、一七五	三七、九三六	△二三、七六一	二五、八四八	△一一、六七三
寄附金	一三、六七八	一三、五四三	一三五	五、五二八	八、一五〇
繰入金	一、五〇〇	〇	一、五〇〇	〇	一、五〇〇
財産賣拂代金	四七、五四〇	五六、一五七	△八、六一七	五六、一五七	△八、六一七
負擔金	六、三五〇	六、九三〇	△五八〇	一、〇〇〇	五、三五〇
繰越金	一	四一、〇七六	△四一、〇七五	一	〇
雜收入	八三、五五五	八九、五六七	△六、〇一二	五九、四五三	二四、一〇二
市税	三九三、七八〇	三六七、六八八	二六、〇九二	三六四、六九一	二九、〇八九
市債	〇	四七一、三〇〇	△四七一、三〇〇	二七二、二〇〇	△二七二、二〇〇
歳入合計	七〇六、九三三	一、〇三七、〇四八	△五三〇、一一五	九二七、一三〇	△二二〇、一九七
神社費	一、二八〇	一、二八〇	〇	一、二八〇	〇
會議費	四、二八六	二、八六一	一、四二五	二、八六一	一、四二五
役所費	七二、九二三	七二、二四八	六七四	七二、二四八	六七四
土木費	一二、三二九	一二、〇七六	二五三	一一、七七六	五五三

科目	本年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
小學校費	二〇五、〇九九	一九八、八二五	六、二七四	一九九、六四一	五、四五八
商業學校費	三六、一五九	三六、七一〇	△五五一	三六、四六〇	△三〇一
幼稚園費	六、八一〇	六、七五三	五七	六、七五三	五七
青年學校費	一六、〇七〇	九、七三三	六、三三七	〇	一六、〇七〇
社會教育費	二、四〇〇	二、二五〇	一五〇	二、二五〇	一五〇
圖書館費	二、〇四三	二、〇一五	二八	二、〇一五	二八
學事諸費	一五〇	二五〇	△一〇〇	二五〇	△一〇〇
傳染病豫防費	一、三八九	一、二八九	一〇〇	一、三八九	〇
隔離病舍費	一、一七三	六一三	五六〇	一、一七三	〇
市立病院費	九、五一一	九、七〇八	△一九七	九、七〇八	一九七
汚物掃除費	九、三九六	九、三七八	一八	九、三七八	一八
代用診療所費	二一〇	二一〇	〇	二一〇	〇
衛生諸費	三一〇	三一〇	〇	三一〇	〇
火葬場費	四、二五二	四、二一二	四〇	四、二一二	四〇
勸業諸費	四、九二五	四、〇三八	八八七	四、〇三八	八八七
職業紹介所費	四、〇一〇	三、八〇七	二〇三	三、八〇七	二〇三
社會事業費	四五五	五〇五	△五〇	四五五	〇
救護費	五、八四二	五、六三二	二一〇	五、六三二	二一〇
診療所費	二八、四一八	一二、二五二	一七、一六六	一二、二五一	一七、一六七
警備費	一五、六六七	一六、一三〇	△四六三	一六、一三〇	△四六三
基本財産造成費	五四〇	四九〇	△四三六	一九五	△一四一

歳出（臨時部）

科目	本年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
財産費	五、二九七	四、七五一		四、七五一	
諸税及負擔公金取扱費	九三七	九二五		九二五	
給與金	五〇〇	五〇〇		五〇〇	
雜支出	四〇〇	一、二一六	△	四〇〇	
豫備費	一六、二七七	一九、六一六	△	一〇、八六六	
寶修學校費	五、〇〇〇	七、九〇九	△	七、一九五	△
青年訓練所費	〇	一、九五三	△	五、八五一	△
經常部計	四七三、五七一	四五三、三〇九		四四一、七三六	
役所費	一、三五〇	五〇〇		五〇〇	
市史編纂費	一、九一〇	二、〇八〇	△	二、〇八〇	△
土木費	三一、一〇〇	一一〇、一二五	△	三九、五〇〇	△
警備費	四、一六八	二、六〇五		二、六〇五	
積立金穀	一三、〇五一	一、八五七		一、八五七	
公債費	一六四、三三八	一九七、八一六	△	一四〇、〇九二	
選擧費	二、四八〇	三、二三九	△	九七〇	

特別會計豫算

科目	本年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
市勢發展調査費	五〇〇	五〇〇		五〇〇	
補助費	一二、九〇九	一三、六八三	△	一三、六八三	△
寄附金	三、六五六	六、七八八	△	六、七八八	△
雜支出	一、二〇〇	一一、一六九	△	九、一一九	△
災害費	二、六〇〇	一四、二、五〇二	△	一三、九〇二	△
勸業費	一〇〇	〇		〇	
診療所費	四、〇〇〇	〇		〇	
小學校營繕費	〇	二七八、四五〇	△	二五六、七〇〇	△
幼稚園營繕費	〇	九、〇〇〇	△	九、〇〇〇	△
國勢調査費	〇	一、〇七五	△	一、〇〇〇	△
燈竿建設費	〇	一、三五〇	△	〇	
臨時部計	二三三、三六二	七八三、七三九	△	四八五、三九四	△
歳出合計	七〇六、九三三	一、二三七、〇四八	△	九二七、一二〇	△
豫算	前年度豫算額	前年度現計豫算額	增△減	前年度當初豫算額	增△減
兒童就學奬勵資金	一、〇九三	二、三八六	△	一、四一三	△
罹災救助資金	八五〇	八三一		八三一	
渡船事業費	八、九四五	一二、一三〇	△	一二、一三〇	△
		一、二九三		一九	
		三、一八五		三、一八五	
				三三〇	
				一九	
				三、一八五	

公益質舗	五七、八八三	五四、五二八	三、三五五	五四、五二八	三、三五五
靈柩自動車費	二、一三四	二、三〇一	一六七	二、三〇一	一六七
清水郵便局舍費	六、三八六	六一、四八四	五五、〇九八	〇	六、三八六
水道費	二五二、五七八	二九六、五三七	四三、九五九	二三四、七五七	一七、八二二
都市計畫街路事業費	三三〇、五九四	九〇三、三九九	六八二、八〇五	三一一、六九九	九一、一〇五
特別會計合計	五五〇、四六三	一、一三三、五九六	七八三、一三三	六一七、六五九	六七、一九六
總計	一、三五七、三九六	二、五七〇、六四四	△一、三二三、二四八	一、五四四、七八九	△二八七、三九三

都市計畫街路事業

清水市都市計畫街路事業は昭和三年より同九年に至る七ヶ年繼續事業として開始せられたが、途中事業費の削減と豫定路線の變更に依つて年限内に事業を完了し得ず結局、昭和十一年迄二ヶ年延長して殘事業を施行する事になり、昭和十一年秋現在に於ける事業進行狀態は駒越—横砂線北部延長事業は二三住家の移轉を俟つて直ちに貫通する迄になつて居り、折戸—三保線は縣市共に着工して年内には竣工の豫定となり、最後の龍華寺—平川地線は七分通り土地買收を濟ませて年内には着工の意氣込みである。故に本年度内には大體完成を告げる模樣で第一期都市計畫事業は終了する筈である。

路線名	幅員	事業費	種別	事業路線	事業費財源	金額
大曲波止場線(竣工)	一二間	一、一九五、〇二五円	受益者負擔金	縣市計畫特別稅	四七四、三一八円
大曲大正橋線(竣工)	八	二三六、六三五	縣費補助	國庫補助金	一九八、九五〇
駒越横砂線(竣工)	八	二八七、九九八	電車負擔	雜收入	八三、〇〇〇
仝線延長	八	一〇八、五九〇	市債		二、一四五、五〇〇
上清水船越線(竣工)	六	一〇〇、四五四			二一五、八七一
村松折戸線(竣工)	一〇	二七〇、五三一			三〇、六四五
折戸蛇塚線(竣工)	八	三七、二〇六			四九、六三九
折戸三保線	八	八八、二三三	市費繰入		四、四七一
龍華寺平川地線	六	一〇〇、三一八			
合計		二、四二四、九九〇	合計		三、二〇二、三九四

耕地・區劃整理事業

清水市都市計畫事業と相呼應して耕地整理並區畫整理事業も盛んに施行され、合計十一組合の設立を見たが、既に全組合共に事業を完了して十年度末に於ては八組合が解散し、殘る五組合は登記手續中に屬するが前年來駒越—横砂線北部延長事業と日本平觀光道路の實現に刺戟せられて駒越—横砂線南部に耕地整理が計畫され、市當局の斡旋に依つて大方の地主は積極的に贊意を表して居るが、一部地主の諒解成らず折衝を續けて居るが計畫區域は上清水、北矢部、村松に亘る十五萬坪で總事業費は十萬圓を要し、地元は減歩に依つて事業を行ひ、直接事業は市當局が三萬圓を以て施行する計畫とな

つて居るもので實施の上は觀光と産業上重要路線の出現を見る可く大いに期待されて居る。

組合名	設立年月	組合員數	面積	事業費
大橋通區劃整理組合	昭和六年十一月	一九人	一、三二四坪	三五、九五九円
船越區劃整理組合	仝　十一月	六二	五四、八三三	三二、一六七
宮加三區劃整理組合	仝　十二月	六〇	四四、六九四	二三〇、四九〇
櫻ケ丘區劃整理組合	仝　八年一月	九	三、二一八	二、五〇〇
櫻橋通リ區劃整理組合	仝　四月	四五	一九、三二一	九、三〇〇

上水道

清水市上水道事業は昭和五年度に着工して同八年に完成し、現在配水管は二十四吋本管より支管を合して延長七萬四千百七十六米に及び、配水管布設區域内戸數の四割九分四厘迄給水を行つて居るがこれが六割以上に達した場合は配水管を延長して漸次區域を廣め、全市へ給水する計畫を持つて居るが、目下の處全市給水を目標として取入れられた水は相當餘剩あるを以つて昭和十年度よりこれを船舶に給水する事業が開始され、岩壁並仲合に於て夫々營業しつゝあるが清水港の發展と共に本事業は益々有望視されて居る。

給水類別	十一年度當初概算 戸數	十一年度當初概算 一ケ月給水使用料	十年度分 戸數	十年度分 一ケ月給水使用料
定額給水	二、三〇〇戸	三、三〇〇円	一、九九四戸	二、六七七円
計量給水	八三〇	三、三七〇	七二四	二、八九九
共用給水	七六〇	四六〇	六一三	三二六
船舶給水	—	一、一七〇	—	四二二

名譽職員

市會議員

（定員三十六名）

辻　山本正治　柴崎賢一　鈴木音吉
上口與右衛門　池上清一郎　伊藤德太郎
結城源一　佐藤文雄　山本量平
江尻　栗田定吉　川島松藏　中村藤太郎
　　稲名龜造　坪井茂三郎　山田政吉
　　杉山德次郎　松村三郎　杉本敬一
清水　柴田準藏　府川平作　鈴木與平
　　若杉愛吉　小野壽一郎
　　白鳥茂作

不二見　望月正有
深江幸太郎
柴田久右衛門
望月善左衛門
片瀨熙一郎
伊藤榮太郎
井上爲吉
柴田清作
三保　宮城島清吉
宮城島孝
堀辰吉

市參事會員

佐藤文雄
柴田清作
杉本敬一
小野壽一郎
松村三郎
結城源一

學務委員

片瀨熙一郎　市會議員
伊藤德太郎　兼岩靜衛
宮城島孝　柴田久右衛門
川島松藏　中村藤太郎
宮城島清吉
山梨重多
木村鼎
欠員

常設土木委員

岡田忠雄　小學校教員
關鼎
三須完一郎

常設水道委員

結城源一　參事會員
杉本敬一　市會議員
上口與右衛門
杉山德次郎
鈴木音吉
井上爲吉
山崎庄十　市公民
望月松藏
中村安太郎
服部千次郎
天野久太郎
野村清三郎

常設水道委員

栗田定吉　市會議員
若杉愛吉
坪井茂三郎
柴田準藏
白鳥茂作
伊藤榮太郎

市會議員　望月善左衛門
望月正有
海野保太郎　市公民
山本惣吉
池田作太郎
櫻田熊吉
天野九右衛門　消防組頭
山田昌榮　醫師會長
山田軍平　藥劑師會長

財政調査委員

山本正治　市會議員
若杉愛吉
栗田定吉
坪井茂三郎
柴田準藏
白鳥茂作
伊藤榮太郎
望月善左衛門

市稅滯納整理委員

若林今朝一　市會議員
山梨謙藏
豐島萬藏
鈴木平一郎
江川政太郎
遠藤茂助
上口與右衛門
杉山德次郎
兼岩靜衛
伊藤德太郎
鈴木音吉
井上爲吉
柴田久右衛門
宮城島清吉

衛生委員

栗田定吉　市會議員
池上清一郎
府川平作
山田政吉
深江幸太郎
堀辰吉
山田昌榮　市公民
成島貫一
望月弘章
眞長兵衛

臨時都市計畫評價委員

若杉愛吉　市會議員
稻名龜造
柴田準藏
白鳥茂作
伊藤榮太郎
望月善左衛門
原臺吉　市公民
鍋田邦次

市公民　望月新太郎
仝　内田郁太

市勢發展調査委員

市會議員　鈴木與平
仝　山本正治
仝　稲名[illegible]造
仝　坪井茂三郎
仝　中村藤太郎
仝　望月正有
市公民　原田三左衛門
仝　山田勝四郎
仝　守屋文太郎
仝　望月益之助
仝　坂上政次郎
仝　小川隆三
委員　佐藤繁一
仝　渡邊房太郎
仝　川勝忍

都市計畫靜岡地方委員會委員

市會議長　鈴木與平
副議長　山本量平
市會議員　柴崎賢一
仝　池上清一郎
仝　府川平作
仝　山田政吉
仝　深江幸太郎
仝　堀辰吉
仝　山本正治
市會議員　堀辰吉
市長　大石惠直
助役　佐藤繁一
技師　川勝忍

臨時出納檢査立會人

參事會員　結城源一
仝　松村三郎
仝　小野壽一郎
仝　川島松藏

港灣利用調査委員

市會議員　鈴木與平
仝　山本量平
仝　小野壽一郎
仝　伊藤德太郎
仝　白鳥茂作
仝　宮城島清吉
仝　柴崎賢一

市會議員　井上爲吉
仝　上口與右衛門
仝　兼岩靜衛
仝　渡邊綱
仝　望月安次郎
仝　望月音次郎
仝　山富次郎
仝　杉山清吉
仝　渡邊清吉
仝　中川宗太郎
仝　松井喜三郎
仝　杉本鎌市
仝　柴田準藏
仝　青島清一
仝　遠藤茂助
仝　宮城島猪之吉
仝　高橋堅太郎
仝　遠藤平壽
仝　望月松藏

家屋稅調査委員

相山久作
望月利雄
松本孫平

區長並區長代理者

區名	區長	區長代理者
相生町	井上幾太郎	野中政大郎
旭町	福田忠平	外岡太郎吉
辻第一區	山崎庄十	望月松
第二區	馬越亮	櫻井鉉作
第三區	小林舗平	渡邊劍吉
第四區	上口與右衛門	瀧松兵衛
第五區	山本林作	望月保次郎
第六區	山田武太郎	大場由藏
第七區	國持彌重	鈴木辰藏
魚町	山田昌榮	中田兼吉
仲町	齋藤彦左衛門	橘川光三郎
紺屋町	杉山德治郎	山田勝次郎
志茂町	丑永重太郎	磯田長作
七軒町	望月伊作	長野國平
巴町	中村兼次	大瀧健次

鑄物師町　久保田愼太郎　杉田健吉
鍛冶町　池上一郎　池上幸太郎
本郷町　佐藤覺太郎　望月武
大手町　杉山寛治　細川貞藏
小芝町　渡邊敏雄　遠藤平壽
傳馬町　丸山實太郎　西村國藏
入江第一區　矢口莊吉　深澤伊作
第二區　竹村與吉郎　坪井茂三郎
第三區　杉山秀吉　三浦市太郎
元追分　府川平作　山本劍次郎
新富町　山本三作　相山久作
榮町　岩本延吉　水本忠藏
岡　中村安太郎　太田文作
上清水　長澤重兵衛　芦川榮太郎
横濱町　井柳音吉　杉本梅藏
片羽　天野龍太郎　梅島常次郎
清水第一區　森源八　川本安太郎
第二區　渡邊清吉　間瀨政助
第三區　山本量平　石野源七

第四區　中村源吉　池上五郎
第五區　宮本惣平　原乙吉
第六區　山田政吉　山田平一
第七區　杉山虎藏　杉山熊吉
第八區　山田圖機　松下業治
第九區　木口準次　望月音次郎
第十區　壷崎福三郎　山本增治
第十一區　山田龜吉　青島清一
第十二區　柴田準藏
第十三區　丸山常次郎　山崎泰治郎
第十四區　小野壽一郎　池上繁太郎
船越　大石新太郎　田代春吉
南矢部　鍋田延吉　鍋田邦次
北矢部　菊地金作　西井啓作
下清水　中川宗太郎　岩田兵次郎
八千代町　永田常次郎　石野音吉
村松　杉木萬吉　望月新太郎
幸町　丸山英一　大瀧大二
宮加三　望月善左衛門　岩崎幸作

駒越　渡邊總齋　藤重多
蛇塚　望月敎作　望月忠兵衛
增　萩原大吉　萩原要作
折戸　柴田兩太郎　堀辰吉
宮方　宮城島猪之吉　宮城島與五兵衛
塚間　窪田峰吉　望月金作
三保第一區　藤浪繁太郎　遠藤平馬
第二區　遠藤清重　遠藤信男

第三區　柴金右工門　柴吉松
第四區　石野熊次郎　藤浪豐吉

【區長事務取扱者】

小芝町三丁目　中村清三郎
小芝町二ノ丸　梅澤德治
宮城町　杉山織次郎
大曲　太田循
元城町　飯島政一

清水市役所

（十一年九月二十五日現在）
（電話代表三〇〇番）

市長　大石惠直　書記　望月守吉　雇　太田遼策
助役　佐藤繁一　仝　杉仁　臨時雇　福島篤
收入役　渡邊房太郎　書記補　山田本淨　仝　若杉フヂエ

庶務課

仝　雇　遠藤定一　仝　相馬治作
仝　稲津淺太郎　仝　寺尾伊幣
主事（課長）程島定彦　仝　杉村令浩　仝　遠藤ぬい子
書記　釘谷猛　仝　望月茂作　仝　太田きく枝
仝　後藤金藏　仝　望月志郎　仝　神戸てる
仝　大川長吉　仝　山田いし　仝　風間喜代美

學務課

主事(課長)波邊矢三郎
書記谷澤熊一
〃法月俊郎
〃大瀧國太郎
〃劍持敏郎
書記補佐藤實郎
〃伏見誠作
〃坪井榮一郎
掃除監視員大角藤次郎
自動車運轉者佐野重太郎
臨時雇瀧昊
〃栗田孝子

財務課

(課長)兼渡邊房太郎
書記永長由太郎
〃青島嗣一
〃吉野常太郎
〃寺尾功平
〃望月顯
〃畑榮吉
〃鈴木先太郎
〃龜山賢一
〃桑原彌三郎
〃木村賢
〃本杉萬平
〃高野延一
〃山本亮
〃高木寅十郎
〃山本數惠
〃堀內義孝
〃望月くら
〃水崎宇吉
〃杉本慶太郎
書記補吉野常太郎
〃望月義松
〃石垣兵之丞
〃小野田喜麿
〃庄司誠策
〃石野新太郎
〃飯野房子
〃岩崎銳成
臨時雇芦澤泰助
〃藤牧芳雄
〃伴野秀作
〃吉川良雄
〃佐野靜子
〃澤野義雄
〃渡邊眞吾
〃牧田定雄

土木課

(課長)兼川勝忍
技師大城忠雄

技手堀義一
〃藁科重吉
〃平井茂雄
書記補小島茂
技手補馬淵富雄
雇佐藤庄吉
〃安間大三
臨時雇足土幸平
〃風間幸作

產業課

(課長)兼程島定彥
書記伴野芳藏
技手風間靖
書記補岩科英哉
〃久保田弘藏
雇橋本芳郎
主事(課長)柴本禮三
書記堀內寅平
書記補高橋喜代
〃杉本薰
技師堀眞
〃山本精二
臨時雇川尻苦太郎
〃杉山譽四郎
技手籠谷誠一
〃藤松省三
〃伴野武雄
〃小長谷鉛太郎

都市計畫課

技師(課長)川勝忍
書記松永益之助
〃山本敏男
〃磯貝大作
〃太田精一
〃山本幸平
〃佐野精一
雇增田鐵藏
〃都築正雄

社會課

主事(課長)宮崎吉太郎
技師堀眞
書記補石切山武治
〃古牧安太郎
〃稻葉陽三
〃渡邊松男
〃高山吾郎
技手補阿部勝太郎
雇梶田儀右衛門
〃堀池衛太郎
〃高鳥孝昌

水道課

雇　長澤鐵雄　醫員　橋本剛
仝　内藤正夫　仝　日下田潔
仝　長岡勉　仝　刑部五郎
臨時雇　望月金五郎　藥劑師　中田讓
仝　渡邊峰四郎　事務員並運轉者　安間左一
仝　高野一夫　事務員　永田常次郎
仝　鐵下晃　看護婦　村松まつ
仝　杉山平二　仝　太田タケノ
仝　粕川かほる
看護婦見習　神戸こと
仝　太田芳江

職業紹介所
（電話一〇三三番）

書記（所長）岩崎金兵衛
書記　岡野永三郎
仝　黑川又吉

公益質舗

事務員　石川登一郎
仝　望月一平

市立圖書館

（館長）兼渡邊矢三郎
書記　鈴木金治

火葬場
（電話四七二番）

技手兼管理者　萩原彬伸

教育

通觀

清水市に於ける學校は縣立中學校一、縣立高等女學校一、市立商業學校一、私立女子商業學校一、裁縫女學校一、女子技藝學校一、尋常高等小學校八、青年學校七、其他市立幼稚園三、私立幼稚園五等であるが、小學校は十一年度に於て入江が割堀田地内へ敷地四千坪を求めて移轉改築を行ひ、又十年度に市會の決議を經たる高等小學校の新設は十一年度に着工し十二年中には各校の高等科を統一する筈で、學校數は九校となる事となり敷地は岡小學校の西方に七千坪を選定して縣下に誇り得る模範校となす筈である。而して各校共に昭和十年の震災を契機として補强工事を完了したので高等科の統制成れば清水市の教育施設は完備する。又昭和十年に縣會を通過せる清水高女の移轉改築は十一年度に至つて漸く實施の機運になり、移轉敷地は大體現校地を後方に去る堂林地内に決定して居ると傳へられる。尙ほ同校の學級增加は昭和十二年度より實施され昭和十五年迄に四學級の增加となる。

中等學校

	學級數	生徒數	職員數
庵原中學校	一〇	五〇四	二四

清水商業學校	一〇	五〇〇	二三
清水高等女學校	九	四四〇	一九
清水女子商業學校	七	二七〇	一四
清水裁縫女學校	三	五〇〇	六

小學校（昭和十一年六月現在）

	教員數		學級數			兒童數			
	尋常	高等	計	男	女	計			
辻	二六	一九	四	二三	一、一七〇	一八五	一、三五五		
江尻	三八	二九	五	三四	一、七二一	二四六	一、九六七		
入江	二五	一八	四	二二	一、〇〇三	一五一	一、一五四		
岡	三三	二五	四	二九	一、五二八	二一二	一、七四〇		
清水	三九	二九	六	三五	一、七一八	二九五	二、〇一三		
不二見	二五	一八	四	二二	九〇六	一九三	一、〇九九		
駒越	一七	一二	三	一五	四七九	一〇〇	五七九		
三保	二四	一七	四	二一	八九三	一六七	一、〇六〇		
計	二二七	一六七	三四	二〇一	九、四一八	一、五四九	一〇、九六七		

市立幼稚園

	學級數	園兒數	職員數
江尻	四	一三八	四
清水	四	一四九	四
三保	二	四六	二

青年講習所（昭和十年）

	職員	生徒數	開講數
清水市青年講習所	一七	一二一	二五
清水市女子青年講習所	一四	七八	八

教育費（昭和十一年度）

	給料	雜給	需要費	修繕費	合計
小學校	一六三、四八三円	一三、八二六円	二八、一四一円	六五〇円	二〇五、〇九九円
商業學校	二六、〇六七	四、二九	五、七一三	二五〇	三六、一五九
青年學校	三、〇〇〇	九、六三二	三、四三八	—	一六、〇七〇

教育費補助

（昭和十一年度）

	幼稚園				
合計	四、九八〇	八五三	九〇八	七〇	六、八一〇
	一九七、五二九	二七、四二九	三八、一〇〇	九七〇	二六四、一三八

國庫下渡・縣費補助

（國庫）	
義務教育費	五五、五〇〇円
短期現役兵俸給	三〇〇
（縣費）	
清水商業學校	一、二〇〇
清水市青年學校	一、九八〇

市費補助

清水市教育會	六四八円
清美幼稚園	二六〇
辻幼稚園	六〇
入江幼稚園	六〇
旭幼稚園	五〇
島崎幼稚園	五〇
清水市青年團	一、五三〇
清水市處女會	七二〇

教職員

（十一年九月末現在）

縣立庵原中學校

（電話四九一番）

校長從六　間處武夫
教諭正六　辻精司
仝　正六　草谷時次
仝　從七　後藤倭彦
教諭　太田藤一郎
仝　北川勳
仝　池上喜作

教諭　長谷川正夫
仝　曦文英
仝　千々岩富士夫
仝　八尋壽太
仝　大石佐太郎
仝　山下謹四郎
仝　長島豐
仝　正八村本信一
仝　正八生津好雄
書記　吉野健一
書記心得　清善作
教諭囑託　池田和市
仝　海野仁
仝　山田康雄
仝　三島喜代造
配屬將校歩兵大尉　大塚義藏
囑託
仝　高畠嘉勝
仝　西山存次郎
仝　太田正規
仝　泉喬一
仝　岩本寛
書記　天野董雄
囑託　渡邊恭雄
仝　ウイルバートローク
仝　マツクウイリアムズ
仝　大長九郎
仝　伊柳銕之助
書記　大坪鐵三郎

清水商業學校

（電話二二四番）

校長　谷川正夫
教諭　千々岩富士夫
仝　八尋壽太
仝　大石佐太郎
仝　山下謹四郎
仝　長島豐
仝　正八村本信一
仝　正八生津好雄
書記　吉野健一
書記心得　清善作
教諭囑託　池田和市
仝　海野仁
仝　山田康雄
仝　三島喜代造
配屬將校歩兵大尉　大塚義藏
囑託
仝　高畠嘉勝
仝　西山存次郎
仝　太田正規
仝　泉喬一
仝　岩本寛
書記　天野董雄
囑託　渡邊恭雄
仝　ウイルバートローク
仝　マツクウイリアムズ
仝　大長九郎
仝　伊柳銕之助
書記　大坪鐵三郎

縣立清水高等女學校

（電話三九六番）

校長正六　西村恒雄
教諭從六　廣野友七
仝　從六　鈴木洪岳
仝　益永透
仝　三浦ふさ
仝　井上治三郎
仝　長野宇起江
仝　木村靜子
仝　清水すゑ
仝　鹽飽吾一
仝　三浦猛
仝　渡邊喜平
仝　瀬戸かず

教諭 高橋文雄
仝 竹下むめ
仝 高橋美
書記心得 坂部民之助
教諭囑託 前島淺吉
仝 從六 土井ちとせ
仝 鵜飼義孝
仝 夏目秋藏

清水女子商業學校 清水裁縫女學校
（電話一八九番）

理事校長 市毛金太郎
理事 中澤毅一
教諭 溝尻長弘
仝 田中賢
仝 寺井鐵藏
仝 山本近次郎
仝 坂田房次
仝 楠巖

教諭 縣康
仝 平尾花笠
仝 竹下むめ
仝 大村武雄
仝 渡邊孝英
仝 片桐昌
仝 池谷武夫
仝 稲葉茂子
仝 野澤務
理事教諭 市毛道子
教諭 勝田早苗
仝 武井幸子
仝 荒井喜代江
仝 曦幸子
囑託 馬場春邦
仝 横山君子
仝 菊地きく
仝 戸田秀雄
仝 寺田俊夫
仝 原安太郎
訓導 小林勳
仝 三澤定雄
仝 渡邊幸平
仝 笹田三郎

辻小學校
（電話七八三番）

訓導 梅原柳三
仝 西井戸利郎
仝 小柳津竹男
仝 稲葉茂子
仝 鍋田良次
仝 鹽津貞
仝 鈴木敬作
仝 石切山ひで
仝 平野利雄
仝 野中ぶん
仝 小林みち子
仝 城内貞惠
仝 太田保司

訓導 佐野智惠
仝 八木ちゑ
仝 小川なみ
仝 大石さと
仝 五十棲しず江
仝 戸田すみれ
仝 森久次
仝 松本ろく
仝 木内せつ
仝 渡邊藤平
仝 片山寅平
仝 佐野千鶴子
仝 大石とき
仝 山本悅
仝 鈴木與三郎
仝 井藤英彥
仝 梅田雪太郎
仝 西脇征露久
仝 川口茂
仝 村上恂
仝 八木理次
仝 天野利雄
仝 日吉登美子
仝 片山貞
仝 鈴木正孚
仝 大石倍子
仝 久保田利雄
仝 鵜飼義方
仝 若林與三郎
仝 保崎萬吉
仝 林正道

江尻小學校
（電話二八五番）

訓導兼校長 三須完一郎
奏任待遇 高橋實三
訓導 山崎孝三郎
仝 佐野千鶴子
仝 大石とき
仝 鈴木與三郎
仝 梅田雪太郎
仝 川口茂
仝 八木理次
仝 日吉登美子
仝 竹永幸太郎
仝 船津好
仝 乾義雄
仝 鈴木和夫

訓導 田中春子
仝 黑柳安郎
仝 土屋四志次
仝 櫻井昇
仝 永田きやう
仝 江馬巖三

入江小學校
（電話二三〇番）

訓導兼校長 岡田忠雄
奏任待遇 原田環
訓導 中島富次郎
仝 山崎惠次
仝 酒井幸平
仝 朝川い江
仝 竹永幸太郎
仝 船津好
仝 乾義雄
仝 鈴木和夫

訓導　小野策司
〃　影山申治
〃　行田隆一
〃　池山ゆき
〃　都築千代子
〃　白井清枝
〃　内藤せい
〃　増井清
〃　鈴木憲二
〃　野々山義晴
〃　安間重雄
〃　井上ちよ
〃　三浦はま
〃　堀尾みちよ
〃　平井俊男

訓導　井木猪作
〃　磯部昌一
〃　望月植太郎
〃　太田三郎
〃　夏目榮一
〃　竹内藤兵衛
〃　佐野林作
〃　澤野義雄
〃　鈴木さくゑ
〃　渥美國雄
〃　高田吉郎
〃　杉山八重
〃　藤牧胖
〃　川端政雄
〃　角替よし
〃　松永らく
〃　稲葉貞子
〃　飯塚治六
〃　川口福太郎

訓導　石川勤
〃　杉山幸一
〃　岡野やす
〃　縣妍枝
〃　龜山實
〃　石井やゑ
〃　天野忠司
〃　大關節
〃　藤野つぎ
〃　片山大次郎
〃　渡仲好雄
〃　服部萬平
〃　水島こま
〃　植田瑞穗

訓導　澤田欣作
〃　江川德五郎
〃　松井國平
〃　池田喜作
〃　石川くに
〃　角替時雄
〃　山田茂
〃　石川卓郎
〃　大石善志
〃　長島元正
〃　加藤次郎
〃　福本嘉七
〃　萩原種作
〃　佐野和夫
〃　朝比奈猛
〃　外村七郎
〃　足立治郎
〃　行田シヅ

訓導　堀金次郎
〃　西山ユキ
〃　風間さか子
〃　小野田ちぬ江
〃　小林ミツ
〃　瀬戸尾はつ
〃　土屋健次
〃　宮川ふさ
〃　增田金助
〃　柴本勝夫
〃　小川茂
〃　川本ちか
〃　川端かね
〃　山本勝
〃　黑川弘司
〃　宮城島好子
〃　柴田逸郎
〃　伊藤八重

岡小學校

（電話六四〇番）

訓兼校長　夏目三雄
奏任待遇

清水小學校

（電話七六七番）

訓兼校長　關鼎
奏任待遇
訓導　渡邊豊治

不二見小學校

（電話五九番）

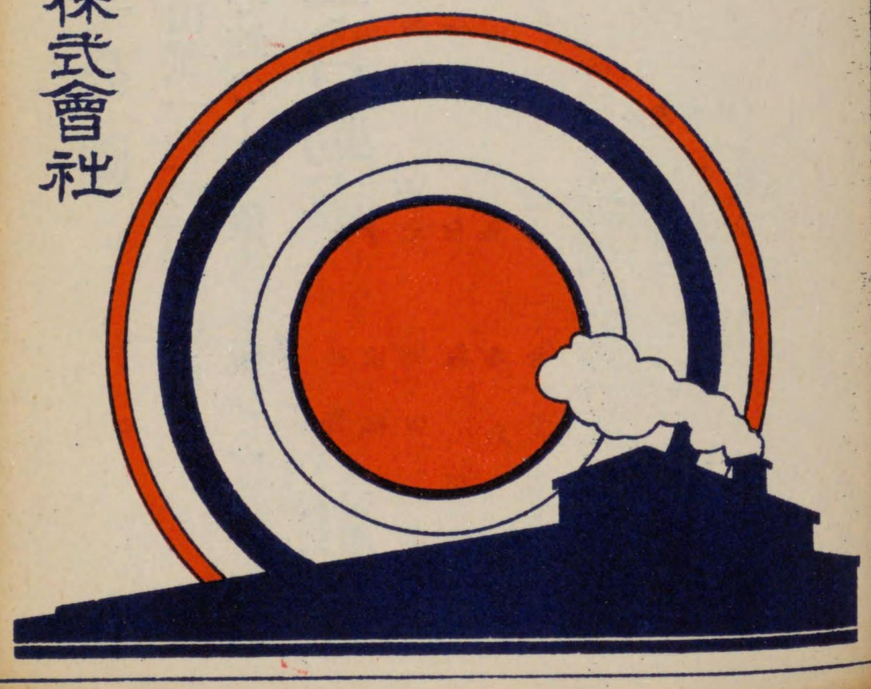
訓兼校長　大場謙太郎
訓導　鷲巣輝
〃　永田菊松
〃　飯田こと
〃　鈴木克己
〃　藤野嘉市
〃　田村鋼太郎
〃　鈴木誠
〃　村松清司
〃　平岡幸作
〃　柴田てる
〃　鈴木浪江
〃　竹内逸平
〃　岡野好子
〃　大島久米子
〃　八木定二

衛生罐

Eat more Canned Foods

もっと
罐詰を
召上れ

小樽市北濱町三丁目
北海製罐倉庫株式會社



訓導　小宮山英知
仝　牧田さく
仝　池田哲太郎
仝　渡邊ちゑ
仝　望月米吉
仝　飯塚久子
仝　松本ふく
仝　伴野規矩
仝　林東樹
仝　水越牧男

駒越小學校
（電話九八七番）

訓導兼校長　川口彌助
奏任待遇　城所武平
訓導　瀧浪良太郎
仝　五十棲秀雄
仝　西和ちさ江
仝　大東清一

訓導　原田武雄
仝　芝田芳雄
仝　増田ゆう
仝　近藤陸平
仝　平野君子
仝　服部くに
仝　矢入芳典
仝　石井茂
仝　栗田浅吉
仝　遠藤みち
仝　齋藤廣

三保小學校
（電話三保二番）

訓導兼校長　弓家田良平
奏任待遇　倉田藤三郎
訓導　飯田昇
仝　西村榮一郎
仝　永長キク代
仝　遠藤安藏

訓導　栗田正雄
仝　岩崎久作
仝　井村元幸
仝　土屋吉秋
仝　宮城島うめ
仝　小林政一
仝　平野吉藏
仝　山城理一
仝　青山ゑん
仝　縣榮一
仝　寺島猛
仝　金子敏夫
仝　水野ふじ子
仝　若林カズ子
仝　遠藤さゝよ
仝　鈴木茂
仝　闕彊
仝　木下宗俊

株式會社

靜岡銀行

靜岡市吳服町

創立明治三十四年

合組用信見二不 有限責任

組合長 大橋清

清水市村松

電話六四五番

國立公園

富士山麓一帶の御遊覽には

乘心地のよい優秀車揃ひの・・・

富士自動車株式會社

東海道線富士驛前

電話富士二一番

社長 西村清策

各地營業所

富士營業所 電話富士四九番

吉原營業所 電話吉原五六番

鈴川出張所 電話一六一番

大宮營業所 電話二三〇番

沼津營業所 電話二四〇番

三島出張所 電話二三二番

蒲原出張所 電話蒲原二〇四番

興津營業所 電話興津二〇四番

有價證券現物賣買

清水市旭町

加株式店

電話 一六 六四 三九 番

有價証券現物金融

上

金上株式店

清水市萬世町

電話 一七九 一四一 六〇〇 番

秋葉前出張所

電話 八六一 番

深江ゴム工業所

所主 深江幸太郎

清水市幸町

電話五四九番

電略(フカエ)又ハ(フ)

風味佳良
もり澤山
出前迅速

皆様本位の

おそば
支那そば
天丼
親子丼

青柳亭

清水市江尻魚町
電話八二三番

釣具
釣餌の御用命は親切第一の

増田貸舟店で

清水市港橋際

クスリ
化粧品
寫眞材料

タシロ藥局

江尻仲町
電話二五四番

〈〉北村回漕店清水支店

靜岡縣清水港

本店 横濱市港町
支店 東京。神戸。大阪

電話五五四番

農林省認定工場
横須賀海軍工廠
横須賀海軍々需部 御用

株式會社 三保造船所

靜岡縣清水市三保
電話（三保）五九番
電略（ミ）又ハ（ミホ）

近代人の常識
就職の近道

歐文
邦文 タイピスト生募集
（入學隨時・學費低廉
短期卒業・晝夜授業）

昭和タイピスト學院
清水市清水上一丁目
（八千代橋大通リ）

（早規則書）

營業課目

歐文 邦文 タイプライター
自働番號器・計算器
手形打拔器・保護器
謄寫器・宛名印刷器
高級事務用器械一式
附屬用品及部分品
新古販賣—交換—修理

諸官署御用達
昭和事務器商會
由井秀雄
清水市清水上一丁目
（八千代橋通リ）

入院隨意

專門
耳鼻咽喉科
馬越醫院

清水市巴町鐵道踏切際
電話七七三番

小兒科
內科
曾根醫院
醫學士 曾根織造
清水市辻末廣町
電話一五五番

清水市辻二〇一番地
株式會社
駿州銀行
電話
一七二番
五〇七番
一七七番

木材保管金融

SMS

株式會社 清水木材倉庫

電話七〇五番

社長 鈴木與平

靜岡市吳服町一丁目

株式會社 三十五銀行

頭取 中村圓一郎

電話代表番號 靜岡三五〇〇番(六)

支店

內新道	市內傳馬町	吳服町安西	
外見付	市中泉	清水江尻	濱松
青島	藤枝	掛川	相良
三嶋	大宮	燒津興津	東富士宮

出所 燒津驛前 神戸 張

協同國產、ちよだ、スミダ、いすゞ　靜岡、山梨縣代理店
東京瓦斯電氣工業ポンプ、薪自動車　同　右
ダイヤモンドトラック　愛知、靜岡、山梨縣代理店
オールヅモビル、ポンテアク　靜岡、山梨縣販賣店

鈴與自動車工場

プリンスタイヤー　東部日本總代理店　電話七四四番
ヂヤイアント三輪車靜岡山梨縣代理店　一、二三九番
自動車々体製作、修理、鐵工業
度量衡計器販賣

市立江尻幼稚園

園長　河合くに
保姆　中川佐惠子
仝　高田千鶴子
仝　飯島淺

私立辻幼稚園

園長　朝比奈たき
保姆　近藤美壽惠
仝　青木梅子
仝　深澤章江

市立清水幼稚園

園長　釘谷ふさ
保姆　梅原やえ
仝　石月二三
仝　山内光子

市立旭幼稚園

園長　田口初吉
保姆　山田芳江
仝　山田よし
仝　森せつ

市立三保幼稚園

園長　田村つる
保姆　野口セツ

私立島崎幼稚園

園長　渡邊孝英
保姆　渡邊靜江
保姆　相田久枝
仝　杉本綾子
仝　伊藤里子

私立清美幼稚園

園長　吉田やつへ
保姆　山田清枝
仝　山下幸英
仝　後藤鈴枝
仝　神戸よし

私立入江幼稚園

園長　增田溪子
保姆　杉山たけ子
仝　望月ふみ江

青年學校

清水市に於ける青年學校は七校であるが其の内江尻は工業、清水は商業を專門的教育として居り、全校生徒は一千百三十六人となり、普通科、本科を通じて二百十五時間以上三百二十時間の授業並教

練を實施して居るが十月からは工業と商業兩青年學校は毎夜授業があり、其の他の學校も一週間に三四回の授業が實施され、青年學校は實施後僅かに一ケ年であるが其の內容は著しく充實されて居る。

學校別生徒數

（昭和十一年十月一日）

	普通科	本科	研究科	合計
辻尻	—	一一九	九	一二八
江尻	六	一八三	一八	二〇七
入江	—	一一三	二一	一三四
清水	—	二一五	二一	二三六
不見二	—	一六八	一八	一八六
駒越	一	七九	一三	九三
三保	五	一三五	一二	一五二
計	一二	一、〇一二	一一二	一、一三六

職業別生徒數

	農業	工業	商業	漁業	其他	合計
辻尻	—	二〇	四二	—	六六	一二八
江尻	八	一〇一	七二	三	二三	二〇七
入江	一四	六〇	三九	一	二〇	一三四
清水	—	七五	一三五	一二	一四	二三六
不見二	一一九	四八	八	—	一一	一八六
駒越	七三	一	三	—	一六	九三
三保	一四四	七	一	—	—	一五二
計	三五八	三一二	三〇〇	一六	一五〇	一、一三六

清水市青年學校顧問　阿部久治　指導員　石切山武治　指導員　深澤清吉

辻青年學校

校長兼教諭　小林勳
教諭　池谷武夫
仝　三澤定雄
助教諭　原安太郎
講師　前島淺吉
主任指導員　藤浪一郎
指導員　榊原豐作
仝　松永安太郎
仝　田雜猪代次

江尻工業青年學校

校長兼教諭　三須完一郎
教諭　藤原長治
助教諭　高橋實三
仝　八木理次
仝　保崎萬吉
仝　山崎孝三郎
講師　五味健兒
仝　横山鐵男
主任指導員　寺田一男

仝　山田源作
仝　伊澤利夫
仝　大橋英夫
仝　山崎良雄

入江青年學校

校長兼教諭　岡田忠雄
助教諭　原田環
仝　酒井幸平
仝　船津好
講師　岩本寛

主任指導員　大坪鐵三郎
指導員　小澤源作
仝　府川勇次
仝　市川鐵夫
仝　山本清
仝　坂本定一

清水商業青年學校

校長兼教諭　關鼎
教諭　大村武雄
仝　渡邊豐治
助教諭　澤田欣作
仝　增田金助
講師　泉喬一
主任指導員　森政雄
指導員　櫻田隆
仝　赤津武雄
仝　田中篤
仝　山田榮作
指導員　青島光一
仝　堀安太郎

不二見青年學校

校長兼教諭　大場謙太郎
教諭　林東樹
仝　池鯉造
仝　小宮山英知
仝　永田菊松
助教諭　水越牧男
仝　水野信
仝　杉村喬一郎
仝　大村亮策
主任指導員　井柳留次
指導員　小杉清一郎
仝　大瀧貞之助
仝　岩崎一平
仝　岩崎春太郎

駒越青年學校

校長兼教諭　川口彌助
教諭　池鯉造
仝　城所武平
助教諭　五十棲秀雄
仝　原田武雄
仝　矢入芳典
主任指導員　岩品久作
指導員　齋藤權太郎
仝　中村清作
仝　丸山鉾太郎
仝　西貝茂

三保青年學校

校長兼教諭　弓家田良平
教諭　池鯉造
仝　飯田昇
助教諭　岩崎久作

助教諭　西村榮一郎
仝　遠藤安藏
講師　遠藤實
主任指導員　窪田伍祐
指導員　中野新作
仝　長澤源吉
指導員　遠藤保男
仝　稻村武治

青年團・處女會・少年團

	分團會數	團會員數	經費
清水市青年團	七	二、六一三人	三、一五五圓
清水市處女會	八	六一五	一、四九五
學校少年團	八	四、五〇〇	三七〇

清水市青年團役員

總裁　大石惠直
副總裁　渡邊矢三郎
團長　奥村幸七
副團長　杉山鹿藏
仝　池田善雄
商工部長　(欠員)
農業部長　(欠員)
學藝部長　(欠員)
運動部長　杉田石太郎
書記　山本精二
仝　杉山譽四郎
本町分團長　杉山不二男
島崎分團長　村井喜代松
江尻分團長　牧田政男
入江分團長　山田宗一
清水分團長　窪田福次郎
不二見分團長　岩田康
三保分團長　藤田清

清水市處女會

會長　西村恒雄
副會長　渡邊矢三郎
仝　廣野友七
辻會長　長坂うめ
江尻會長　山梨イキ

清水會長	鈴木まさ	學校少年團長	渡邊矢三郎
入江會長	岡田晴	分團長	小林勳
岡會長	大關節	仝	三須完一郎
不二見會長	（欠員）	仝	岡田忠雄
駒越會長	柴田さく	仝	夏目三雄
三保會長	宮城島りやう	仝	關鼎
仝		仝	大塲謙太郎
仝		仝	川口彌助
仝		仝	弓家田良平

清水市聯合少年團

團長	大石惠直	副會長	渡邊矢三郎
副團長	山本正治	仝	間處武夫
常任幹事	渡邊矢三郎	仝	三須完一郎
市少年團長	成島貫一	仝	岡田忠雄
海洋少年團長	窪田元助	仝	夏目三雄
仝		仝	關鼎
仝		仝	川口彌助
仝		仝	西村恒雄
仝		仝	高島嘉勝
仝		仝	間處武夫
仝		仝	大場謙太郎
仝		仝	弓家田良平
仝		仝	小林勳

清水市教育會役員

統理	大石惠直		
會長	鈴木與平		

市立圖書館

清水市々立圖書館は昭和六年九月創立され、五ヶ年になるが藏書總數は六、〇三七冊、外に洋書二九冊其他新聞雜誌等多種類取揃へて居り、昭和十年度の閲覽人員は左の如くで、年々增加して居る事は清水市文化の上に喜ふ可き現象である。

開館日數	男	女	合計	一日平均
二八六	二八、七一六人	六、九〇六人	三五、六二二	一二四・五五

社寺

通觀

清水市には縣社一、鄕社一、村社二十一、無格社十四、合計三十七社あり。神職は六名である。本市は深く敬神に意を用ひ、昭和十年度より公費供進の途を開いた外市役所樓上に於ては毎月一日十五日、月次祭と同時に國運伸暢並出征軍人武運長久祈願祭を行ひ又敬神思想普及の爲市及氏子總代會に於ては講演會、神社視察をも行ひ、昭和十一年度十一回總會に於ては毎月一日を神棚並佛壇の清淨日と定めて各家庭に敬神崇祖の念を徹底せしむる一方總代會にあつては優良會員表彰の途を開き益々神社興隆に力を致して居る。十一年度中主なる事項は紀元二千六百年を記念として辻矢倉神社の鄕社昇格運動が開始された事と、下清水金刀比羅神社が參考資料を蒐集して公認運動に乘り出した事である。

寺院は合計三十九ヶ寺中臨濟宗に屬するもの十八ヶ寺、日蓮宗十三ヶ寺、淨土宗四ヶ寺、眞言曹洞宗四ヶ寺の分野を示して居る。又教會は二十二あつて其の內天理教九、金光教二、キリスト教七、大師教二、其他眞言宗醍醐派、御嶽教、曹洞宗、神道扶桑教各一あり、信者は大約七千五百名と稱されて居る。

各神社祭神由緒、例祭日

縣社　御穗神社（三保）

祭神　大己貴命　御穗津姫命

由緒　延喜式内の古社にして朝延から屢々位階を賜はり、又歴代武家の尊崇も厚く神領を寄進せられたと云ふことである。明治の御宇縣社に列せられた。日本武尊御東征の砌勅を奉して幣物を供せられたと傳えがある。

寶物　鈴木三郎重家糸卷の大刀は國寶の指定を受け、又羽衣の切端を藏してゐる。

例祭日　十一月一日

郷社　八幡宮（江尻）

祭神　譽田別命　大鶴鶴命　武内宿彌

由緒　嵯峨天皇弘仁二年の創建と傳え、小芝城修築の後は三の丸廓内となつたから城の鎭守と崇められ、武田氏の特別保護を受けたと傳えられる。

寶物　白蓬萊鏡及廣前の額を藏してゐる。小芝城趾碑　元本丸の遺跡にあつたものを當社境内に移せるものである。

例祭日　十月九日

村社　美濃輪稲荷神社（清水）

祭神　宇迦之御魂命　大宮姫命　太田命

由緒　寶永年間に松平甲斐守が米廩鎭守の爲勸請したのであつて舊向島五本松に在つたのを享保五年現在の地に移したものである。

例祭日　三月十五日

村社　矢倉神社（辻）

祭神　大足彦命　日本武尊

由緒　相殿　神武天皇　八重事主命　姪兒命　日本武尊御東征の際の遺跡であつて、その威靈を祀つてある式外の古社で、

社傳によれば仲哀天皇の御宇に奉祀したと傳えられる。社號の起源は兵庫（箭倉）を置かれたからと云はれてゐる。天正十八年豐臣秀吉が兵を小田原に進めし時當社に參拜して大刀及玉石を獻じたとの事である。

例祭日　十月十七日

村社　八雲神社（清水）

祭神　素盞嗚命

由緒　寶歴元年三月の勸請にて文久三年六月此處に社殿を新築遷座す。元天王社と稱せしも明治四年今の社號に改む。

例祭日　八月二日

村社　八幡神社（上清水）

祭神　譽田別命　配祀素嵩嗚命

由緒　堀河天皇の御宇寛治元年十二月源義家の勸請する所と傳ふ。後代寛文十二年十一月清水船手奉行細井佐次右衞門社殿を再建額面を寄進せり。

例祭日　十月十六日

村社　八幡神社（下清水）

祭神　譽田別命

由緒　文治年間の勸請と云ふ。現在の境内社船玉神社は天智天皇の御宇の創建と傳へ、民部省圖帳に住吉神社と見ゆるは是なりと。寛物の鎧は室町幕府時代のものと鑑定せらる。

例祭日　十月十七日

村社　村松神社（村松）

祭神　譽田別命　手力雄命

由緒　古くは直日神社或は中野明神と稱し、雄略天皇の御宇奉幣ありしと古典に見ゆる舊社なり。大正四年八幡神社を合併して現社號に改む。

例祭日　十月十七日

村・社　白髭神社（入江）

祭神　武内宿彌命　建御名方命
配祀、阿久突智命　奥津比古命　奥津比賣命　彌都波能賣命　金山比古命

由緒　創建年月は詳かならざるも建長七年の棟札を存せり。入江家武田家の尊崇厚かりし神社なり。入江家皆左三巴を家紋とすること古書に見ゆ、之當社の紋所なり。

例祭日　十月十七日

無格社　稲荷神社（入江）

祭神　宇氣母智命
配祀、恩兼命　崇德天皇　大己貴命

由緒　入江家及德川家に於て文殊堂として尊崇厚かりしと傳え、明治の始め神佛の混交を禁せられ以來今の社號に改めり。

例祭日　十月十七日

無格社　淡島神社（入江）

祭神　少彦名命　大國主命

由緒　慶長時代御船手奉行屋敷をこの地に移したる當時虚空藏堂として累代奉行の尊崇厚かりしと傳え、明治の始め神佛の混交を禁せられしより今の社號に改む。

例祭日　十月十七日

無格社　若宮八幡神社（入江）

祭神　譽田別命
配祀、宇氣母智命

由緒　德川時代御船藏屋敷（今の濱田）に移したる當時稲荷社として奉行の尊崇厚かりし社なりと傳ふ。明治時代濱田よりこの地に移せり。

例祭日　四月三日

村社　八坂神社（南矢部）

祭神　素盞嗚命　應神天皇

由緒　寛文七年二月創建と傳え、明治元年今の社號に改む。鎌倉以來八幡神社と共

に矢部家の尊崇厚かりしとのことなり。

例祭日　七月十四日

村社　八幡神社（宮加三居屋敷）

祭神　譽田別命

由緒　創建年月詳かならざるも寛政二年再建すと傳え、鎌倉時代より三澤家の尊崇厚かりしとのことなり。

例祭日　十月十七日

村社　八幡神社（宮加三南屋敷ノ坪）

祭神　譽田別命

由緒　創建年月は詳かならざるも天和二年再建すと傳え、鎌倉時代に加茂家の尊崇厚かりしとのことなり。

例祭日　十月十七日

村社　水神社（江尻）

祭神　彌都波能賣命

由緒　創建年月は詳かならざるも嘉永二年再建すと傳えられる。

例祭日　六月十五日

村社　稲荷神社（江尻）

祭神　蒼稲魂命

由緒　創建年月不詳なれども永錄十二年武田家江尻城を修築し、穴山梅雪衛戍の時鎮守の神と崇敬せしと傳ふ。

例祭日　八月一日

村社　伊勢神明宮（船越）

祭神　天照皇大神　佐田比古命

由緒　創建年月不詳なれど寶暦二年九月再建せりと傳ふ。

例祭日　十月十六日

村社　駒越神社（駒越）

祭神　素盞嗚命　宇迦能御魂命　應神天皇
菅原道眞

由緒　明治四十二年當宇鎮座の五社を合せて駒越神社と改稱せり、雄略天皇の御宇奉幣ありしと傳え、惣國風土記に止由

氣神社とあり。
例祭日　十月十七日

村社　神明宮（北矢部）
祭神　天照皇大神
由緒　古老の口碑に昔背後の山を神殿になせしと、即ち上代神籬磐境の遺制に倣えるものか。
例祭日　十月十七日

無格社　熊野十二神社（村松）
祭神　譽田別命外十一坐
由緒　創建は康平五年大歳壬寅正月勸請と鎮守懸札にあり。裏書には宰相入道御筆なりとあり。從來久能寺の地内にありしを維新後神佛の區域を分てり。
例祭日　十月十七日

無格社　稻荷神社（下清水）
祭神　天字受賣命　外四柱の神を祭る
由緒　允恭天皇の御宇の創建なりと傳え、古來月見里神社と云ひ中世より現在の如く稱ふ。元和元年三月修造の棟札を存せり。保元年間源爲朝祈誓せしと傳え爲朝の納めしと云ふ石印、笠、空海の納めし辨財天の像鎌倉時代の古鏡其他を保存す。
例祭日　六月十五日

村社　荒神社（江尻）
祭神　奥津彦命　奥津姫命
由緒　創立年月詳かならざれども元錄十三年再建すと傳ふ。
例祭日　五月二十八日

村社　稻荷神社（村松）
祭神　稻倉玉神　伊弉冊尊
由緒　創建年月詳かならざれども日蓮宗海長寺の古文書に徵するに御宇多天皇の御宇以前の創建なりと傳ふ。
例祭日　三月十五日

村社　神明社（增）
祭神　天照皇大神　遠田彦命
由緒　創建年月詳かならざれども明治二年再建の棟札を存せり。
例祭日　十月十七日

村社　白髭神社（蛇塚）
祭神　武内宿禰
由緒　天錄年間之を鎭祭せるも文化二年火災により古書類を烏有に歸せり。
例祭日　十月十七日

村社　瀨織戸神社（折戸）
祭神　瀨織津姫命
由緒　惣國風土記に神護景雲元年所祭とあり。明治十二年八月村社に列す。
例祭日　一月六日

村社　春日神社（追分）
祭神　天兒屋根命　武甕槌命　輕津主命　比賣大神
由緒　創建年月詳かならざれども當所は中古入江維清居住以來子孫連綿の地なれば其祖神を勸請せしならん。
例祭日　十月十七日

無格社　佐久神社（三保）
祭神　遠田彦命
由緒　創建年月詳かならず。
例祭日　六月十五日

無格社　羽車神社（三保）
祭神　大己貴命　三穗津姫命
由緒　惣國風土記に大己貴命羽車に乘御し來りて此處に憩ひし遺跡なりとあり。
例祭日　六月十五日

無格社　水神社（清水）
祭神　彌都波迺賣命
由緒　寛永年間の創建なりと傳ふ。
例祭日　六月十五日

無格社　西宮神社（清水）

祭神　事代主命

由緒　寛保二年十一月新殿遷座の上棟文中に往昔西宮より此地に勸請すとあり、其年代詳かならず。

例祭日　十一月十九日

無格社　松ケ崎稲荷神社（清水）

祭神　宇迦之御魂命　大宮姫命　太田命

由緒　寛延元年の創建にして天明六年現今の地に移す。境内に加茂眞淵の撰文の碑あり

例祭日　三月十五日

寺院一覽

山號	寺院名	所在地	宗派	住職氏名
忠高山	實相寺	清水市清水	淨土宗鎭西派	中村辨康
恒河山	妙生寺	〃	眞宗本願寺派	清水眞乘
堀江山	專念寺	〃	眞宗大谷派	曾我賢量
圓敎山	妙慶寺	〃	日蓮宗	玉谷日音

清水山	成就院	清水市清水	臨濟宗妙心寺派	塚本廉慶
明王山	延壽院	入江	眞言宗醍醐派	天野實榮
紫雲山	法岸寺	〃	淨土宗鎭西派	鵜飼義孝
瑞陽山	東泉寺	〃	臨濟宗妙心寺派	長谷川久雄
長江山	實久寺	〃	〃	平岩觀宗
金龍山	東明院	〃	〃	高田仁嶽
樹林山	慈雲寺	〃	〃	水谷東演
入江山	明通寺	〃	眞宗大谷派	池田清
大小山	慶雲寺	〃	臨濟宗妙心寺派	木下雲山
九品山	福嚴寺	下清水	淨土宗鎭西派	友松覺眞
祝融山	光明寺	〃	臨濟宗妙心寺派	木下雲山
幽香山	梅蔭寺	〃	〃	林金昇
普門山	玉泉寺	船越	曹洞宗總持寺派	乙川文中
見海山	能滿寺	南矢部	日蓮宗	渡邊湛榮
雲門山	新定院	北矢部	臨濟宗妙心寺派	鵜飼禪超
幡桃山	東海寺	〃	〃	井上全勝
龍水山	海長寺	村松	日蓮宗	久保田桂秀
觀富山	龍華寺	〃	〃	井出觀容
東光山	本能寺	〃	〃	本間英存

帝國

教會所一覽

遠岡山	本妙寺	村松	日蓮宗	小倉貫運
久光山	壽昌寺	宮加三	臨濟宗妙心寺派	渡邊智俊
陽澤山	東向寺	仝	仝	遠藤法龍
駒越山	京寶院	駒越	眞言宗醍醐派	野々村慧運
富春山	萬象寺	仝	臨濟宗妙心寺派	若色至誠
增井山	龍源寺	增	曹洞宗	今井說禪
補陀洛山	鐵舟寺	村松	臨濟宗妙心寺派	伊藤臺巖
養保山	妙福寺	三保	日蓮宗	鈴木文厚
白華山	禪叢寺	上清水	臨濟宗妙心寺派	木下雲山
廣長山	妙盛寺	辻島崎	日蓮宗	渡邊孝英
海光山	淨春寺	江尻	仝	中村見修
吸江山	法雲寺	仝	臨濟宗妙心寺派	淨見泰嶽
市中山	江淨寺	仝	淨土宗鎭西派	鶴谷俊了
華生山	妙蓮寺	仝	日蓮宗一致派	笠井義厚
本應山	妙泉寺	仝	日蓮宗久遠寺派	今井賢秀
示迹山	本要寺	辻	日蓮宗	高橋勵瑞

教會所名稱	教派	所在地	擔任教師
名京大教會靜岡分教會庵原支教會	天理教	清水市入江	大塚實
仝 清水港宣教所	仝	富士見町	大塚信次
仝 江尻宣教所	仝	江尻	瀧賢太郎
甲賀大教會岐美分教會北野支教會	仝	仝	澤村利兵衛
靜江宣教所	仝	仝	仝
水口大教會嶽東分教會	仝	辻	青木祐爾
辻町宣教所	仝	入江	植松市作
山名大教會富士分教會	仝	三保	柴信次
靜駿宣教所	仝	入江	野上ムツ
名京大教會靜岡分教會庵原支教會	仝	駒越	岸山義篤
三保松原宣教所	仝	江尻	押尾才作
河原町大教會越之國分教會本島支教會	仝	下清水	岩崎善藏
教會中駿宣教所	仝	上清水	松本良松
本大教會谿鄕分教會不二見宣教所	大師教	江尻	杉浦秀慶
金光教清水教會所	金光教	辻	若杉養隆
金光教本清水小教會所	眞言宗醍醐派	仝	杉山勇次郎
高野山大師教會清水支部	御嶽教	上清水	生田臺宗
高野山大師教會江尻支部	曹洞宗		
眞言宗醍醐教會分教會			
御嶽教神誠教會			
曹洞宗法持寺說教所			

ひとのみち教團清水支部　神道扶桑教
清水美普教會　キリスト教
日本メソヂスト清水教會　仝
清水福音教會　仝
救世軍清水小隊　仝
日本聖公會聖雅分教會　仝
清水基督教會　仝
天主公教會　仝

入江岡　青山俊男
辻　貝沼哲捷二
上清水　矢内一
清水　アージド・ニューマン
江尻　加藤常吉
江尻　中野ふさ
入江　清水文雄
　　セーラーシャバート
　　アンドリュース
　　ル・ドラエ

神職會清水支部

理事　高田仁巖
仝　笠井義厚
副支部長　長澤雄楯
仝　野々山慧雲
支部長　長澤茂穎
仝　今井說禪
書記　劍持敏郎
評議員　仝　池山清
仝　渡邊孝英
仝　今井說禪
仝　渡邊湛榮
仝　野々山慧雲

佛教會清水支部

支部長　大石惠直
副支部長　中村辨康
常任理事　渡邊矢三郎
理事　鵜飼義孝
評議員　仝　若色至誠
仝　高田仁巖
仝　中村辨康
仝　清水眞乘

氏子總代會清水支部

支部長　大石惠直
副支部長　佐藤繁一
仝　堀辰吉
仝　笠井義厚

評議員　石本正治
幹事長　渡邊矢三郎
幹事　劍持敏郎
仝　天野久太郎
仝　伏見治三郎
仝　上口與右衛門
幹事　宮城島勝造
仝　福士狎一
仝　西田伊之藏

兵事

通觀

昭和十一年九月末調査に依る清水市に於ける現役軍人は陸軍一六七名、海軍五七名、在鄕軍人會々員三千五十四名である。本年五月二十三日には靜岡部隊が交代で凱旋した爲在滿兵は激減して居るも國家非常時に處して關係諸團體は大いに緊張して使命に邁進して居る。陸軍簡閲點呼は七月二十二日より二十五日迄清水商業學校校庭で執行され、海軍は七月十八日清水港に入港せる軍艦「春日」艦上で執行された。又徴兵檢査は四月十六日より二十一日迄清商に於て執行されたが夫れ等の成績は別表の如く好成績を示して居る。

十一年度簡閲點呼

令達人員	參會人員	不參人員			
		疾病	無届	事故	計

十一年度壯丁檢査

陸軍	七五八	七四二	三	一一	二	一六
海軍	三七	三七				

兵役人員（昭和十一年九月）

	壯丁者	二十歳以上	志願者	入寄留者	合計
甲種	一七八	七	一一	一三	二〇九
第一乙種	五九	五			六六
第二乙種	七八	九	一	二	九〇
丙種	七一	八	一	八	八八
丁種	一四	一		三	一七
戊種	二	二			二
計	四〇二	二九	一三	二八	四七二

	現役	豫備役	後備役	補充
陸軍	一六七	四四〇	七六七	一、四七六
海軍	五七	二〇	二四	—

在鄉軍人會

聯合分會	分會	會員數	經費豫算
一	六	三、〇五四人	二、八六三円

帝國在鄉軍人會清水市聯合分會

顧問　鈴木與平　仝
會長　山本量平　仝
副會長　望月利雄　仝
仝　寺田一男　分會長
仝　片山勇吉　副長
理事　堀內寅平　仝
仝　杉本董　仝
仝　窪田伍祐　仝
仝　西村貞作　仝
仝　田中藤作
仝　小長井幸七
仝　山梨芳松
監事　鍋田邦次　分會長
仝　寺田一男　副長
仝　青木清一　仝
仝　大坪鐵三郎　仝
仝　池谷源一　仝
仝　竹內理吉　仝
仝　青木清一　仝
仝　石切山武治　仝
仝　藤浪一郎　仝
仝　榊原豐作　仝

辻分會

仝　杉山英太郎

江尻分會

入江分會

分會長　大坪鐵三郎
副長　小長井幸七
仝　稲垣雄太郎
仝　小澤源作

清水分會

分會長　川口享治

副長　田中藤作
仝　山田圖機
仝　山田留次郎
仝　山田英一
仝　西貝義朗

不二見分會

分會長　岩品久作
副長　岩崎敏郎
仝　杉村喬一郎
仝　山梨芳松

三保分會

分會長　藤浪岩吉
副長　窪田伍祐
仝　長澤源吉
仝　柴田廣

海軍部

部長　櫻井源作
副部長　古川藤四郎
仝　椎名末三
理事　藤浪岩吉

國防協會清水市支部

聯合支部長　大石惠直
副支部長　山本量平
仝　佐藤繁一
常務理事　柴本禮三
理事　鈴木與平
仝　原臺吉
仝　杉本敬一
仝　望月利雄
仝　寺田一男
仝　片山勇吉
仝　竹內理吉
仝　大坪鐵三郎
仝　川口亨治
仝　岩品久作

海軍協會清水市委員部

顧問　鈴木與平
委員長　大石惠直
副委員長　佐藤繁一
仝　山本量平
仝　坂上政次郎
常務委員　柴本禮三
委員　櫻井源作
仝　木野大吉
仝　村岡源次郎
仝　竹內理吉
仝　藤原國夫
仝　寺田一男
仝　大坪鐵三郎
仝　片山勇吉
仝　藤浪岩吉

委員　橫田幸雄
仝　幸坂愼
仝　新井五三郎
仝　白鳥茂作
仝　古川藤四郎
仝　影山七郎壽
仝　石神福次
仝　鈴木文厚
仝　川崎芳太郎
仝　長谷川甚三

清水市奬兵會

會長　大石惠直
副會長　佐藤繁一
仝　山木量平
仝　新井五三郎
仝　白鳥茂作
仝　古川藤四郎
仝　影山七郎壽
仝　石神福次
仝　鈴木文厚
仝　川尻甚太郎

大日本國防婦人會清水支部

名譽支部長　鈴木昌子
支部長　大石八重子
副支部長　長阪うめ子
仝　木村浪子
仝　田中久子
仝　鈴木昌子
仝　江川みき
仝　川口たき
辻分會長　長阪うめ子
江尻分會長　寺田一男
入江分會長　大石八重子
清水分會長　鈴木昌子
不二見分會長　江川みき
三保分會長　藤浪岩吉

社會通觀

清水市に於ける社會事業は市社會課、社會事業協會、方面委員等が其の衝に當つて居るが、施設と

しては公益質舗、職業紹介所、市立診療所、法律相談所等があり、昭和十一年度には震災一週年記念事業として救護所設立の計劃が樹てられ、又貧困者兒童の救護徹底を期して小學校に救護委員も設けられた。

民間の社會施設としては隣保館、自助館、教化會を始めとして保育園、母子ホーム、授産所、醫師會實費診療所等が完備して居る。又一面には愛國婦人會や寺院に依つて農繁期托兒所も年々開設されて居る。

而して昭和十年中に於ける社會事業成績を通觀するに方面委員取扱の生活扶助、保健救護、兒童保護、相談、紹介、教化其の他合計二千七十二件に及び精神病者取扱五件、行旅病人並死亡人取扱ひ十三件、社會課に於ては教化事業として精神作興週間の催し、主婦會の組織奬勵、震災救護等頗る多忙を極めた。

救護法に依る救護

	生活扶助	醫療	助産	埋葬	合計
世帶數	七六	七三	一	一三	一六三
實人員	三〇六	八五	一	一三	三〇四
延人員	三八、七三六	四、〇〇三			四二、七三九
金額	四、三九一、〇〇	一、二四五、五二	四、〇〇	七一、一三	五、六四九、六四

軍事救護

	生活救護	醫療救護	埋葬救護	計
現役兵	一、三二一、五〇	三八、四〇	一〇、六〇	一、三六〇、五〇
傷痍軍人	六五、四〇	〇	〇	六五、四〇
計	一、三七六、九〇	三八、四〇	一〇、六〇	一、四三五、九〇

恩賜財團濟生會救療

	實人員	延日數	金額
全額治療	三四二	五、八〇〇	二、〇三五、〇一
半額治療	三一	三七三	四八、三三
助産	五	二〇	一五、九七
計	三七八	六、一九三	二、〇九九、三一

市立診療所

清水市診療所は從來市立病院に併置されてあつた爲に位置が一方に偏した爲利用者は案外少數なるに鑑み、診療科目を增加すると共に昭和十一年六月より市の中央部たる駒越横砂線濱田地内に分院を設け、病室其の他萬般の施設を以つて綜合病院たるの内容を備へ、原則として午前中の診療は分院で行ひ、午后は本院で行ふ方針を取り、又診療範圍も從來は醫師會との圓滿を計る爲戸數割五圓以下の

納税者と限定して居たものを分院開設と共に此の制限を撤廢した爲利用者は一時に増加し、開始以來三月を出でずして既に狹隘を告げた程であつた。昭和十年度の成績は患者數一三、七二五名、其内施療四二三名、市外者一、六八七名に止まつて居る。

公益質舗

清水市營公益質舗は庶民金融機關として利用者は年々増加して居るが、生業資金の貸出しに依つて取扱ひ金額も激増し、昭和十年度の成績は前年度に比し入質金額に於て七、六三九圓、受戻金額六、二〇七圓の増加を示して居る。

（昭和十年度取扱）

	員數	口數	點數	金額	利子收入
入質	四、六二〇	七、〇六五	二三、一四八	三三、〇八〇、二五円	—
受戻	三、七九一	六、六〇五	二一、九六八	三一、〇二二、四五	一、五六六、六七円

法律相談所

清水市では市民の簡易なる一般法律上の相談に應じて市民の福利増進を計る可く昭和十年度より毎月第一並第三土曜日の午后一時より四時迄都市計劃課樓上に無料法律相談所を開設し、水谷、岡、江川三辯護士を囑託して交互に相談所を受持つて居るが、開設初年度は開所日數四九四、取扱ひ件數百二十六件利用者人員百六十人等であるが、其の内最も多數なるものは債權並債務に關する件で、これ

に次いでは戸籍關係が多數を占めて居る。

清水市職業紹介所

清水市職業紹介所は開所以來十一ヶ年を經過したが、年と共に其の事業は益々多忙となり取扱件數は開所以來求人者三萬五千人、求職者三萬九千人、就職者一萬九千人の成績を示し、昭和十年度に於ては求人五千九百八十六人、求職四千九百二十六人、紹介件數三千九百四人、就職三千四百四十一人を示して居る。又昭和九年十二月からは内務省令に依り有度、西奈、高部、飯田、庵原、袖師、興津小島、西河内、由比、蒲原、富士川以上十二ヶ町村と連絡して紹介事務を取扱つて居る。

此の外少年職業紹介に就いては市内八校、郡部十六校、合計二十四小學校と連絡して適性檢査の上適當なる職業に就かしめ、就職の上はこれが輔導に當る等職業紹介事業は社會的に益々重要性を加へて居る。

職業紹介年別取扱表

	求人者數			求職者數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
大正十四年	五一三	一五三	六六六	八四〇	四三	八八二	四三〇	一九	四四九
昭和元年	八二八	二五五	一、〇八三	一、一四五	一〇二	一、二四六	四九一	五一	五四二
仝二年	七九一	三一〇	一、一一一	一、一九四	一四〇	一、三三四	三一三	七七	三九〇
仝三年	一、一六〇	四一一	一、五七一	一、一六二	一九三	一、三五五	三七八	八七	四六五

	求人者數			求職者數			紹介件數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
工業鑛業	六〇三	二四三	八四六	五六七	八八	六五五	四二一	七九	五〇〇	三九	六〇	三八九
土木建築	一、七七二	一五	一、七八七	一、三九五	一二	一、四〇六	一、三六	一二	一、三二七	一、三一五	一二	一、三一八
商業	四四三	二二五	六五八	二五七	九三	三五〇	二五〇	七三	三三二	一三八	五六	一九四
農林業	六二	—	六二	七二	—	七二	六三	—	六三	五六	—	五六
水産業	一三五	二七九	五一四	二一〇	一二〇	二三九	一一九	一二〇	二二九	一一五	一〇七	二二二
昭和四年	一、二二六	五〇五	一、七三一	一、二七九	二七九	一、五九八	四〇九	一二一	五三〇	八七七		
仝五年	一、三八七	五四三	一、九三〇	二、四五六	四一七	二、八七三	六八四	一九三	八七七			
仝六年	二、二八	九八四	三、二〇二	二、六四八	七〇一	三、三四九	一、一七九	二七七	一、五五六			
仝七年	四、五六一	一、五四六	六、一〇七	五、二二四	一、二九八	六、八四七	六、四三九	三、一六九	三、二三一			
仝八年	四、七七二	一、六六〇	六、四三二	三、八四九	九八四	五、八三三	六、四三九	七二〇	七二〇			
仝九年	三、六三六	一、五八一	五、二一七	一、〇七七	一、〇七七	四、九二六	二、五一一	五〇三	二、七七一			
仝十年	四、〇五四	一、九三二	五、九八六	三、八四九	一、〇七七	三、九〇四	二、七七一	六七〇	三、四四一			
合計	二五、一四六	九、八九〇	三五、〇六三	二九、一八五	六、四五七	三五、六四二	一五、五六六	三、五三八	一九、一〇四			

昭和七、八年ノ取扱數多キハ不況ヲ物語ルモノニシテ小商工業者ガ勞務方面及雜役等ヲ希望シタルモノニテ幸ヒニモ失業應急事業其他市ノ直接事業等アリテ就職率ヲ高メタリ

昭和十年中職業別取扱表

	求人者數			求職者數			紹介件數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
通信運輸	九三	一二	一〇五	一八	一四六	七〇	二〇	九〇	六五	一〇	七五	
戸内使用人	三二	七四四	七七五	四三五	四九八	三三	二八六	三〇八	二〇	二二六	二四六	
雜業	九一五	三二四	一、二三九	三二	一、五六〇	八〇九	二三六	一、〇四五	七三三	四三	九三三	
合計	四、〇五四	一、九三二	五、九八六	三、八四九	一、〇七七	四、九二六	三、〇八〇	八二四	三、九〇四	二、七七一	六七〇	三、四四一

一、求人者ノ主ナルモノハ土木建築ニシテ雜業、工業、戸内使用人ノ順序ナリ
二、求職者ハ雜業ヲ第一トシ土木建築、工業等ニシテ女子ハ雜業戸内使用人等六割九分ヲ占ム
三、就職者數ノ求職者數ニ對スル比ハ七九%ニシテ好成績ヲ示セリ

求職者年齡調

	十二歳以下	十三歳以上	十四歳以上	十五歳以上	十六歳以上	十八歳以上	二十歳以上	廿五歳以上	三十歳以上	四十歳以上	五十歳以上	計
男	一	七	一八	六〇	二三六	二四一	七四〇	五七三	九〇二	七〇八	三七四	三、八四九
女	一	六	二〇	五五	一八五	一五一	二三四	七三	一六二	一四八	四三	一、〇七七
計	一	一三	三八	一二五	四一一	三九二	九七四	六四六	一、〇六四	八五六	四一七	四、九二六

一、求職者ノ年齡別ヨリ見ルトキハ三十歳以上四十歳マデノ者三割九歩强ニテ最モ多ク、二十歳以上二十九歳マデノ者三割三歩、十九歳以下二割、五十歳以上八八歩ノ割合ナリ

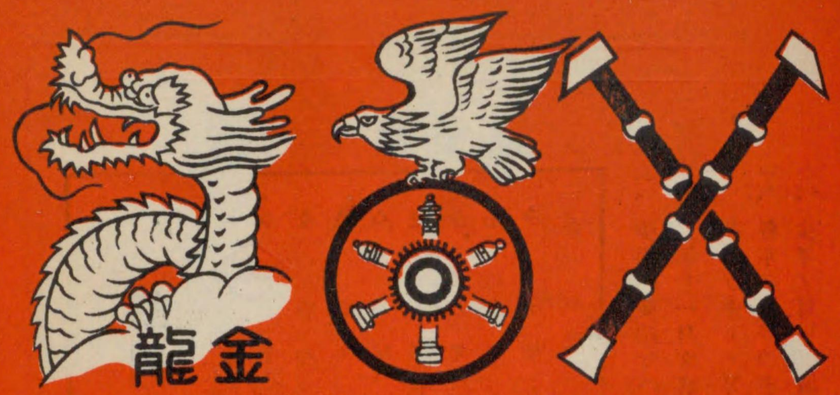
少年職業紹介年度別取扱數

	求人者數			求職者數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和元年	一八六	三八	二二四	六〇	三五	九五	二三	一四	三七
仝二年	一二五	三二八	三四三	三七	二三	六〇	二九	一八	四七
仝三年	三七八	二一九	五九七	一〇六	一〇三	二〇九	四四	五三	九六
仝四年	四三二	三〇九	七四〇	一五一	一〇八	二五九	二五	五九	一二〇
仝五年	四三〇	五二一	七四一	二五〇	二二九	四八九	七五	八七	一六二
仝六年	五八四	五四五	一、一二九	三〇七	三〇六	六一三	一〇四	一五九	二六三
仝七年	六五四	八八七	一、五四一	三六三	四八一	八四四	一三五	二七八	四一三
仝八年	九一九	八三四	一、七五三	四八三	三七五	八三八	一五五	二六七	四二二
仝九年	六〇五	七一八	一、三二四	三三九	三〇一	六三〇	一九七	一六六	三六三
仝十年	八六七	七二五	一、五九二	三九三	三四三	七三六	二一八	一九一	四〇九
合計	五、一五九	四、八二五	九、九八四	二、四五九	二、三一四	四、七七三	一、〇四一	一、二九一	二、三三二

一、少年職業紹介ハ大正十四年七月文部省普通學務局長並ニ內務省第二部長ノ通牒ニ依リ開始シ昭和二年十一月文部大臣ノ兒童生徒ノ個性尊重及職業指導ニ關スル訓令ノ趣旨ニ基キ小學校ト聯絡提携シテ是レニ當レリ

二、各年ヲ通ジテ求人者數ハ求職者數ニ對シ二倍强ニシテ就職者ハ求職者ノ四割八分ニ當レリ

三、少年ノ就職者數ハ累計二千三百三十二人ナルモ現在少年トシテノ就職者ハ五百七十一人ニシテ既



布ホース

火の用心

靜岡縣下各消防組御用

東京 銀座

大正製麻株式會社

飛切高級塗料ト溶劑

直輸入

Hundred%
BRAND
QUAUTY

百パーセントラッカー

ロイドラッカー

長島化學製品所

長島銀藏

清水市入江町　電話一七三八七〇番

大阪市東淀川區十三東ノ町

電話北五四七五番

東京市芝區新橋四ノ四八

電話芝二二五九番

靜岡縣清水港袖師海岸

株式會社 大阪製材機工作所

清水工場

富士製作所

本社

電話長清水一〇七二番

清水郵便局私書函第十六號

東京營業所

（大阪市浪速區大正橋東詰）

（電話長櫻川二七三四・二四〇八番）

（東京市丸之內丸ビル三階）

（電話丸の內（23）一九五四番）

各地營業所

（名古屋・廣島・久留米・小松島・盛岡）

營業品目

朝鮮臺灣米　輸入麥小麥
滿鮮大小豆　養鷄飼料　直輸入商
北海大小豆　外國米碎米

清水市入船町（私書函一四號）

長小野壽一郎商店

電話（二五九番　七〇〇番）
電略（ヲノ）又（ヲ）

◆釀造原料製餡原料現先物御注文願上候◆

清水港水先案内
事務所
幸阪慎

清水市波止場
電話六三六番

自宅　清水市入江八八四番地
電話三七六番（夜間用）

清水無線電機株式會社
電話八六五番

清水市松原町
三丁目三十七番地

神奈川縣三崎町
仝出張所
電話一二番（呼）

御買物は
是非專門店會を
御利用下さい

清水市專門店會
事務所　清水市相生町
電話一二一四番

沼津市
株式會社 駿河銀行
清水驛支店……清水驛前　電話一七〇番
清水支店……清水港町　電話八三八番
清水・入江支店……入江町　電話二三五番

資本金百萬圓

清水港驛前

通

清水運送株式會社

電話七四二番・七四三番・九七三番

同　清水驛支店

電話自一六四番至一六七番

同　埠頭驛支店

清水市港町四丁目拾番地

稅關貨物取扱人

清水郵便局私座函第拾壹號

青木運送株式會社

電話清水五〇八番
五〇七番
五七二番
六〇九番

振替口座東京八七五七三番

支店東海道線清水驛前
電話清水八二九番
八〇八番

派出所東海道支線清水港驛前
電話清水六九四番

仝　東海道支線清水埠頭驛前
電話清水一一三九番

清水市
庵原郡

柑橘商同業組合興津支部

清涼飲料水製造
和洋酒販賣
大日本ビール特約店

清水市入船町
鈴惣商店
電話二二三番

佐藤式釣車製造發賣元
大崎式釣車特約販賣店
繼竿製造 清水市江尻柳橋畔
リイーヅ竿製造
本テグス
釣道具
釣エサ
竿貞釣具店
佐藤貞三郎
電略(サトウ)又ハ(サ)

清水市松井町川岸通リ
釣舟網舟
釣道具餌一式
松下貸舟店
呼電二一四番

ジャパンツユリーストビユウローカ加盟旅館
清水市海岸通リ
加盟旅館 朝陽館
各室電話接續
電話長一一一番
一一二番

清水市清水波止場
旅館 弦糸館
電話二一二番

清水市江尻（清水驛ヨリ西五丁）
鐵道省指定旅館
靜岡縣廳
大ひさし屋
電話五三四番
（各客室電話接續）

喫茶＝食堂
やすい軒
清水驛前
電話一〇一〇番

清水市
庵原郡
柑橘商同業組合
電話七七九番

靜岡縣清水市築地町二丁目廿八番地
寺田鐵工所
電話七九〇番

内科
小兒科
外科
婦人科
耳鼻科
レントゲン科
清水市入江百拾七番地
保証責任
醫療利用組合
聯合會
更生病院
清水分院
電話二一九番

富の壽
菊世界
寒梅盛
壽源

清水市萬世町
富安合名會社
清水販賣所
電話一〇七八番
主任　西ケ谷戸作

二年期明ケ、滿二十歳以上トナリタル者七十人アリテ各業務ニ精勵シ居レリ

昭和十年中少年職業別取扱

	求人者數			求職者數			就職者數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
工業鑛業	三三五	一〇六	四三一	一八二	五二	二三四	一〇八	二	一二九
土木建築	七〇	七	七七	三二		三二	二〇		二〇
商業	三三八	八九	四一七	六五	三	六九	三三	一五	四七
農林業	六	一	六	三	一	三	一	一	一
水産業	二四	二四	四八	一二	九	二一	一〇	四	一四
通信運輸	六	六	一二	一五	一四	二九	四	一〇	一四
戸内使用人	二七	三七七	四〇四	二五	一七一	一九六	一三	一一〇	一三三
雜業	八一	一一六	一九七	五九	六六	一一五	三三	三一	六三
合計	八六七	七二五	一、五九二	三九三	三四三	七三六	二一八	一九一	四〇九

一、工業及鑛業ハ製糸、紡績、裝身具、機械器具、船舶車輛、電氣、金屬、食料品、嗜好品等ナリ
二、戸内使用人ハ僕婢、兒守、書生給仕等ニシテ通信運輸ハ鐵道、電鐵、自動車、通信從事員等ナリ
三、雜業ハ看護婦見習、藥局見習、外交集金人、配達人、理髮、娯樂場雇人等ナリ

清水市社會事業協會

本會は方面事業の助成機關として昭和四年十二月創立以來市内各種團体との連絡統制を圖りつゝ事業の達成に邁進し、特に從來の一時的救助を目的としたる慈善事業の領域を脱し、汎く社會的疾患に對する診斷と治療と豫防とを中心として事業遂行につとめ、以て社會の要求に應じ各種社會施設の建設に努力し市民共榮の實を擧ぐるを目的とし、兒童保護、社會救護、救療、敎化並指導等に當り、昭和十年度に於ては左の如く事業を實施した。

事業種類	金額	摘要
會報費	六〇、〇〇	年一回本會事業報告ヲ兼ネタル協會報ヲ發行
兒童保護費	八二、〇三	乳幼兒健康相談及赤ん坊選奬會及兒童保護費
生業資金貸付金	二五、〇〇	窮民ニ對シ無利子デ小額資金ヲ貸與シ生業ノ助成ヲナス
研究調査費	八、六五	社會事業ノ研究調査
救護費	四六四、四一	カード階級者ノ生活救護及年末給與及防貧救護
救療費	一四五、五七	カード階級者ニ對スル治療費
旅費欠救護費	三二、八三	浮浪者ニ對スル乘車、給食、治療
視察費	四〇、四三	優良社會事業ノ視察
敎化指導費	九三、九七	祖先法要會、慰靈祭、要同情者ノ年末敎化會
社會事業補助費	一九〇、〇〇	市内社會事業團體ニ對スル補助
托兒所費	八四、六〇	農繁期托兒所

雜費	三七、五〇
計	一、三五三、九七

社團法人 救護會清水自助館事業成績（昭和十年度）

	宿泊	宿泊延人員	有料宿泊	無料宿泊	一日平均
男	一、二二八	五、五二四	二、八八四	二、六四〇	一五・三〇
女	六〇	一三五	七四	六一	〇・九四
計	一、二八八	五、六五九	二、九五八	二、七〇一	一六・二四

月別宿泊者

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
實人員	八七	六三	一〇七	一〇八	一四四	一〇六	九五	一一〇	九五	一三三	一二五	一二七
延人員	五三八	三三四	三三四	三六四	四六二	四四七	四三六	四九六	六四八	五五七	六〇五	五五六

年齡別宿泊者

	男	女
十二歳	一七	二二
十二歳	六	七八
十三歳	一四	三二
十四歳	一二	三七五
十五歳	五	一八六
十六歳	五	九八
十七歳	一	二八
十七歳以上	〇	九
計	六〇	一、二八八

職業斡旋

	工場勤務	土木建築	商店勤務	配達	屋内使用人	運搬	合計
實人員	三二	六一	二二	一〇	九	八	一四三
賃金（一日平均）	男九〇錢 女四〇錢	男一〇〇錢	男五〇錢	男五〇錢	女四〇錢	男一五〇錢	

母子ホーム報恩寮

清水自助館では昭和十年九月に母子ホームを開設し十一年三月迄に八世帶二十六人を入寮せしめたが其の内三世帶一〇人は出寮し後緣、歸鄉、住込奉公各一に身を堅めたもので子供を持つ不幸な母の爲には最もよき救ひの手となつて居る。此の短期間内に入寮した八人を見るに三十三歳の女が最も多く、子供三人の者と子供一人の者が多い。配偶者との關係は生別、死別等々で生別中には夫の入獄二夫に正妻ある者一、夫の賭博常習者一であるも哀れであり、職業別に見れば看護婦一、保姆一、女工三、女中二、裁縫内職一等で學歷を見れば高女卒二名であるも意外である。

十一年三月調	入寮者	出寮者	現在者
世帶數	八	三	五
人員	二六	一〇	一六

清水保育園（昭和十年度）

	入園	退園	年度末現在	延人員	一日平均預數
男	一九五	九五	一〇〇	一七、五〇二	五六
女	一四七	九一	五六	一一、六四七	三七
計	三四二	一八六	一五六	二九、一四九	九三

方面委員

辻瀧松兵衛　清水曾我野賢量
仝杉本鎌一　仝丸山常次郎　顧問山田勝四郎
仝不二見　仝鈴木正平　仝井上光治
江尻池上清一郎　仝遠藤法龍　仝山梨謙藏
仝駒越　仝松永德三郎　仝望月治作
仝柴田亀吉　三保鈴木文厚　會長大石惠直
仝林八重　仝石本正治
入江鵜飼義孝　清水市社會事業協會　副會長佐藤繁一
仝五條德太郎　常務理事柴本禮三
仝出口茂敏　顧問鈴木興平　理事瀧松兵衛
清水山田政吉　仝原田三左衛門　仝池上清一郎
仝柴田龜吉
仝林八重

理事　鶴谷俊了
仝　杉本鎌一
仝　鵜飼義孝
仝　五條德太郎
仝　出口茂敏
仝　曾我賢量
仝　丸山常次郎
仝　山田政吉
仝　山崎義太郎
仝　松永德三郎
仝　鈴木正平
仝　遠藤法龍
仝　柴田耕作
仝　鈴木文厚
仝　杉山德次郎
仝　中村安太郎
仝　白鳥茂作
仝　井上爲吉
仝　堀辰吉

日本赤十字社清水市委員部

委員長　大石惠直
副委員長　佐藤繁一
收入委員　渡邊房太郎
事務委員　渡邊矢三郎
仝　程島定彦
仝　永長由太郎
仝　谷澤熊一

愛國婦人會清水市分會

顧問　大石惠直
仝　鈴木まさ
分會長　大石八重子
仝　佐藤貞子
副長　佐藤繁一
參與　佐藤たけ
仝　渡邊房太郎
仝　渡邊矢三郎
仝　柴本禮三
參與　永長由太郎
書記　杉山譽四郎
仝　和田ろく
仝　辻分區長長阪さゑ
仝　江尻つや
仝　佐藤つや
仝　入江眞たけ
仝　岡田尚子
仝　山田政吉
仝　清水中村和嘉
仝　不二見瀧戸すみ
仝　駒越杉江かう
仝　三保藤井チヨ

主婦會（會長）

辻第三區竹內はな
辻第四區長阪うめ子
入江第二區眞たけ
清水本町山本たき
清水十一區望月市子
清水仲町玉谷コト

下清水江川みき
船越音川文中
村松妙音寺田村よね
村松原大場シズ子
北矢部籠波ますエ
宮加三遠藤ムメ
駒越齋藤こと
塚間遠藤ひろ子
三保第一區有原さゝの

教護委員

渡邊矢三郎
川口彌助
夏目三雄
岡田忠雄
三須完一郎
弓家田良平
關鼎
小林勳
鵜飼義孝
山田政吉
大場謙太郎
木村友吉
大川良吉

衛生

通觀

清水市の衛生施設は市立病院一、市立診療所二、醫師會實費診療所一、更生病院一、醫師五十二名火葬場一、靈柩自動車一等で、市長の諮問機關として衛生委員あり、團體としては醫師會、齒科醫師會、產婆會、藥劑師會等がある。昭和十年中の傳染病發生數は一二七件で前年に比し一〇件增加して最多發生は疫痢で、腸チブスがこれに次ぎ、八月五日より十四日迄各小學校其他にて全市民に豫防注射を實施した。其の數四、八一六名であるが該患者は三四名に及びしも前年に比して七名を減じて居

る。而して市立病院入院患者は九一名にして前年より越入院者六名あり、合計九七名となり、其の内全快八一名で一五名は死亡して居る。火葬場取扱數は九九三にして靈柩自動車使用回數は市内四八六回、市外三四回合計五二〇回となつて居る。

傳染病

	本年度發生	前年度發生	增△減
赤痢	一七	一七	
疫痢	五三	三五	
腸チブス	三四	一三	
パラチブス	二	四	△
猩紅熱	六	二	△
ヂフテリア	一四	九	一
流行性腦脊髓膜炎	一	一	六
計	一二七	一一七	一〇

傳染病者轉歸調

	前年越	本年發生	全快	死亡	翌年越
赤痢	一	一七	一七	一	
疫痢		五三	二七		
腸チブス		三四	三一	七	二六
パラチブス		二	一	一	
猩紅熱		六	五		
ヂフテリア		一四	一三	一	
流行性腦脊髓膜炎		一	一		
計		一二七	九五	三六	二

種痘

昭和十年清水市公種痘は春秋兩季に種痘所十ケ所を設置し、延日數三十八日を以つて市醫及助手を雇傭し市吏員が出張事務を取扱つて施行したが、其の成績は左の如し。

		公種痘				私種痘				未種痘
		善感	不善感	未檢診	計	善感	不善感	計		
第一期	第一回	一、六三九			一、六五八	三九		三九		二七八
	第二回	一三			三八					一三
第二期	第一回	五三			一四三					五
	第二回	五			一四四					四

火葬場使用數

	市內住民	市外者	計
特等 大人	四三		五一
特等 小人	一	八	
一等 大人	一九六		二二七
一等 小人	二七	三一	一
二等 大人	二八一		二九二
二等 小人	三四一	一一	二七
無料 大人	二一	八	二一
無料 小人	二五		三四九
計	九三五	五八	二五
			九九三

汚物並路面掃除

	人夫數	搬出重量	戸數・路線數	延人夫數
塵芥搬出	一四	一、二七八、三七〇貫	一一、四三八戸	四、一六一人
路面汚物搬出	一	二一、九四四貫	二九線	二九八人

清水市醫師會

（電話一〇八五番）

會長　內科　山田昌榮
副會長　產婦人　成島貫一
理事　外、皮　木村鼎
評議員　內科　瀧戸直內
　內、小兒　村手雄太郎
會員　外、產婦　能勢義一
　耳鼻科　馬越亮
　內、小兒　龜田五十吉
　內、產婦　古田弘平
　外、皮、花　堀口義次
　內科　岩淵明治
　外科　伊藤博
　眼科　花田祐敎
　內科　齋藤磯次
　小兒科　大原傳次郎
　全　大林皓
　內科　神山源治
會員　眼科　吉川三作
　產、婦人　田口初吉
　內、小兒　竹內敏
　全　曾根織造
　內、耳鼻　宗かん
　內、小兒　長澤金治郎
　內、產婦　中村榮之助
　內科　野澤廣行
　外科　石本正治
　內科　山田昌庵
　全　保田謙藏
　內、耳鼻　松井壽次
　內科　藤井丈之助
　皮膚科　安部良白
　內、產婦　坂井貞三
　內、小兒　宮原顯治
　全　志村義三郎
　皮、耳鼻　平野敏雄
　眼科　森島順一
會員　內、小兒　宮原齊
　內、外、眼　杉本良雄
　外、耳鼻　下山季治
　耳鼻、喉　壇崎義郎
　外、皮　朝永通
　內科　杉江善次
　內、小兒　鈴木百太郎
　內、外科　杉山好次
　小兒科　太田鋼三
　內科　毛皮雄三郎
　外、皮　薄場武
　眼科　高良武春
　內、小兒　寺尾幸司
　全　竹內俊一
　全　吉田大也
　外科　秋山勳
　產、婦人　森正之
　耳鼻、喉　後藤和男
　內科　山崎明倫

會員　外科　板橋剛
〃　耳鼻、喉　日下田潔
〃　庄司新
〃　刑部五郎

清水市醫師會診療所

（電話一、〇八五番）

所長　古田弘平
幹事　宮原齊
〃　下山季治
相談役　成島貫一
〃　田口初吉
〃　太田鋼三
〃　田村金司
〃　丸山實太郎
〃　安部初雄
〃　杉山藤市
〃　杉山寛治
〃　渡邊敏雄
〃　遠田洸
〃　土屋茂
〃　山田武太郎
〃　靜原隆
〃　石川要司
〃　佐々木清
〃　河村孝義
〃　諸井信司
〃　河村靜
〃　木村幸人
〃　福島婦美子
〃　藤井武雄
〃　望月一雄
會員　鈴木稔
〃　村上孝一郎
〃　北原勉
〃　望月しげ子
〃　渡邊セツ
〃　川又惣太郎
〃　古澤眞平
〃　庵原郡桑原正彦
〃　井川貞治
〃　立花平次
〃　二階堂德之進
〃　角田虎雄
〃　宇佐美正雄
〃　富樫寛治郎
〃　三輪淳逸
〃　望月道村
〃　秋庭恒
〃　河知逸郎

清水市
庵原郡

齒科醫師會

（電話二五六番）

會長　望月弘章
副會長　五十嵐準
〃　酒井芳太郎
會員　清水市　大藤平三郎
〃　望月一雄

清水市產婆會

（電話八七三番）

會長　成島貫一
副會長　河野かつ
會員（清水）　古川ふく
〃　中村よう
〃　加藤のぶ
〃　柴川いわ
〃　望月きく
〃　（辻）田
〃　長谷川勝子
〃　杉村よし
〃　外岡みな
〃　劍持しづ子
〃　北村美佐子
〃　白鳥きよ
〃　大石しげ
〃　（江尻）河野一二三
〃　河野かつ
〃　河野つる
會員　望月歌子
〃　熊ケ谷ひめよ
〃　平野とく
〃　吉村しげ
〃　篠田まさ
〃　川口チエ
〃　尾上治代
〃　遠藤いよ
〃　長谷谷川勝子
〃　田中治子
〃　杉村よし
〃　外岡みな
〃　劍持しづ子
〃　北條きり
〃　吉川いつ
〃　（入江）佐々木あい
〃　岡とら
〃　望月綾子
會員　長瀨達子
〃　杉山華子
〃　齋藤みち
〃　古松ヤスエ
〃　太田きゑ
〃　加藤とし
〃　岡村清子
〃　大戸なつ
〃　松田だい
〃　（不二見）八木りき
〃　松本はつ江
〃　風村ひさ
〃　片瀨ゆき
〃　（駒越）堀とし
〃　岸山壽子
〃　望月とら
〃　石原ちゑ
〃　（三保）坪井とし
〃　榑林さく

會員（三保）遠藤愛子
仝　宮城島きん
仝　漆畑かね
仝　上原くの
仝　新井すゑ
仝　鈴本ゆき
仝　櫻田ともゑ
仝（興津町）永峰はる
仝　井上しげ
仝　井上志喜惠
仝　濱たか
仝　西岡らく
仝　望月とき
仝（由比）成島加壽
仝　佐野ふじ野
仝　望月みち
仝　鈴木とめ
仝　松永やす子
仝（蒲原町）藤崎ヤイ

會員　藤崎富美子
仝　安藤せん
仝　中村ふさ
仝　中村きい
仝　中澤ゆき
仝　長澤ゆき
仝（富士川町）太田せつ
仝　明石志ん
仝　明石きく江
仝　加藤ひさ
仝（庵原村）村上ゆき
仝　植田はな
仝　小笠原まし
仝（小島村）一ノ宮さだ
仝　渡邊きぬ
仝（兩河內村）望月たい
仝（松野村）神戸なつ
仝　久保田吉江
仝　秀村コト
仝（飯田村）今井光子

會員　戸田高
仝　岡村良惠
仝（高部村）藤卷由
仝　大木すぎ
仝　片岡きく
仝（西奈村）大橋よね
仝　山田きわ
仝　山崎はな

看護婦會

清水看護婦會
（電話七八九番）
會長　永田郁
清見潟看護婦會
（電話九四五番）
會長　橋本うめ
明治看護婦會清水支部
（電話三一六番）
吉野信夫

大正看護婦會清水支部
（電話五六一番）
大津ちよ

學校看護婦

宇佐美つや
鹽澤さだ子
關澄子
影山ふさ江
藤田光子

聯合會更生病院清水分院

（電話二一九番）
內科小兒科院長　竹內俊一
醫學博士
內科小兒科　醫學士　吉田大也
仝　秋山勳
外科　仝　後藤和男
耳鼻咽喉科　仝　森正之
產婦人科　仝　產婆　中澤てい
レントゲン科醫學博士竹內俊一
技手　高橋銀三
藥局　東京藥學士　望月靜雄
看護婦　宮城島さの
仝　阿部みつ
仝　長瀨達子
仝　齋藤錫子
仝　小林春子
仝　大森益治
看護婦　持田しづ江
仝　渡邊すゞ江
仝　大瀧いと
仝　小長谷幸子
主事　小川藤次郎
外務　望月靜
書記　高橋博
仝　川端千惠子
仝　佐野こう
運轉士　杉山進
小使　齋藤與三次郎

警備

通觀

清水警察署は清水市庵原郡下の警備に當り管內に派出所九、駐在所一二ケ所を持ち、陣容は署長警視一、警部一、警部補五、巡査部長一一、巡査六九、其他六合計九十一名の現在である。清水港には清水々上警察署が置かれ昭和十一年九月には現在の位置の對岸に當る縣水產試驗場側へ移轉の準備が進められ、署の陣容も擴充される筈であるが現在では警部補署長一、巡査部長一、巡査四、水夫四、合計一〇名である。

清水市消防組は常設部外七部に分ち部員は部長八、小頭六二、消防手三八七合計四五七名である。

犯罪及變死

（昭和十年）

刑事犯		警察令違反	自殺者			
發生件數	檢擧件數		男	女	未遂	計
一、九三二	二、一三四	六四一	一六	五	〇	二一

火災年別調査

	火災度數				罹災戸數	燒失棟數				燒失坪數	損害見積高
	建物	山林	其他	計		全燒	半燒	消止	計		
昭和四年	一九	一	四	二四	二三	一三	四	九	一六	三九四、二五	五三、一五一、〇〇
仝五年	三三	〇	四	三七	四一	三二	七	八	四七	一、八三三、〇〇	一五七、〇一三、〇〇
仝六年	二五	〇	三	二八	二八	一四	七	一〇	三一	三三三、六〇	七八、七四七、〇〇
仝七年	一五	二	五	二二	二五	一三	四	六	二四	二三七、〇〇	一六五、七六五、〇五
仝八年	一六	〇	六	二二	二二	七	一〇	二	一九	二四七、〇〇	一一、三三八、〇〇
仝九年	二六	五	二	三三	三三	二	二	二四	二八	一八二、〇〇	二、四二八、五〇
仝十年	一三	〇	三	一六	一九	四	一	七	一二	七〇、六五	八、〇三八、〇〇

火災調査

（昭和十年中）

失火度數		九
放火度數		一
電火不審火度數		六
合計		一六
上掲中	延燒度數	四
	不延燒度數	二
	小火及消止度數	一〇
住家	全戸燒失	一
	半燒又ハ消止	七
	燒失面積	六一、一五
非住家	全棟燒失	三
	半燒又ハ消止	五
	燒失面積	九、五
損害見積高		八、〇三八

部別に因る人口戸數及火災度數損害高

	戸數	人口概數	火災度數	損害見積高
第一部	二、八〇九	一四、二八五	七	六、一二〇
第二部	二、三四八	一二、四六六	二	一〇
第三部	一、〇八〇	五、五六二	一	五〇
第四部	八五五	四、一一一	四	一、八二五
第五部	九八二	四、五七〇	一	三
第六部	二、一四七	一一、五一六	〇	〇
第七部	二、一三〇	一〇、六二九	一	三〇
合計	一二、三四二	六三、一三九	一六	八、〇三八

清水市消防組組織

	定員			
	部長	小頭	消防手	現在員合計
常設部	一	二	九	一二
第一部	一	七	三八	四六
第二部	一	一〇	六六	七七
第三部	一	一〇	五八	六九
第四部	一	六	五三	六〇
第五部	一	七	五〇	五八
第六部	一	一五	七一	八七
第七部	一	五	四四	五〇
計	八	六二	三八九	四五九

各部に屬する區域

常設部	清水市一圓
第一部	清水、萬世町、入船町、松原町、富士見町、港町、築地町、日ノ出町、新港町
第二部	下清水、船越町、南矢部、北矢部、村松、宮加三、駒越、增、蛇塚
第三部	三保、折戸
第四部	辻島崎
第五部	辻本町
第六部	江尻
第七部	入江、元追分、上清水

各部機械器具

	ポンプ自動車	蒸汽	ガソリン	腕用	牽引自動車	計

消火栓並用水

	消火栓	用水池	用水井戸	河川	海	合計
第一部	一五六	四	一	八	五	一七三
第二部	四七	三	九	八		六七
第三部	一	一	一六	一	一	一八
第四部	三四	一	二	一	二	三八
第五部	五〇	八	一	二	一	六一
第六部	七一	三	一	二	一	八〇
第七部	九九	七	一〇	一〇	一	一二〇
第一部	一	一	一	二	一	五
第二部	一	一	一	一	一	三
第三部	一	一	三	二	一	六
第四部	一	一	一	一	一	三
第五部	一	一	一	一	一	二
第六部	一	一	一	一	一	四
第七部	一	一	二	二	一	五
常設部	二	一	一	一	一	二
合計	二	二	一〇	九	七	三〇

常設部	(市内一圓)				
合計	四五七	二五	三九	二八	八	五五七

清水警察署

(電話六五番)

署長地方警視	井上康義	建築工場主任 鈴木才一郎
次席警部	横森篤	視察主任 青柳利雄
警部補		消防兵事主任 袴田庄吉
富士川派出所	犬塚左享	庶務主任 大橋勝
保安工場主任兼衛生主任	大川良一	營業主任 三上秀志
園公警衛主任	山本一二	司法係 岩本勝藏
特高主任	松井虎雄	仝 宮本金重
司法主任	本村友吉	警衛專務 加茂敏治
巡査部長		特高係 巡査
會計主任	近田若芳	統計係 修多羅浩
蒲原派出所	石川代作	庶務係 杉山和平
刑事主任	半田京平	視察係 石垣茂太郎
興津派出所	吉澤修三	特高係 繁田金八
		司法刑事 澤入義平
		仝 岩崎周藏
		仝 澤西佐一
		仝 望月萬夫
		外事係 大塚榮次郎
		衛生係 渡邊喜造
		會計係 依田久雄
		雇 菊地智賀一
		電話 寺田泰二
		仝 青木光太郎
		建築技手 高橋文雄
		衛生技手 永井品次

清水々上警察署

(電話二〇〇番)

署長警部補	松浦彌三郎
巡査部長	鈴木麟二
巡査	日吉敏次

仝　高橋光彌
仝（會計係兼營業係）土屋文次
仝　池永邦典
水夫長　長澤國太郎
水夫　杉本常吉
仝　山田泰次
仝　眞田將治

清水市消防組

（電話五〇番）

組頭　天野九右衞門
副組頭　佐藤覺次郎
仝　太田循
常設部長　高橋春太郎
小頭　宇佐美芳祐
仝　保田伸
消防手　杉山由太郎
仝　平岡隆太郎
仝　河原勇吉

仝　塚田篤三
仝　三本木忠次郎
仝　山本整
仝　中山五部
仝　山本忠平
仝　竹內光史
仝　望月市太郎
仝　保田淺吉
第一部長　瓜柴政吉
小頭　仲井要作
仝　酒井金太郎
仝　出口定吉
仝　沼田平太郎
仝　小杉竹次郎
仝　川崎福太郎
第二部長　杉本萬吉
小頭　大瀧昌作
仝　井上喜代作
仝　杉本忠作

仝　松永龜太郎
仝　鈴木萬太郎
仝　池田清
仝　大瀧常吉
仝　廣澤晃
仝　天野利平
仝　杉本幸太郎
第三部長　遠藤茂助
小頭　遠藤哲雄
仝　櫻田丑太郎
仝　長澤源吉
仝　宮城島平重
仝　長澤武雄
仝　川口虎吉
仝　宮城島勝作
第四部長　長澤憲次郎
仝　竹下吉三郎
仝　遠藤清太郎
山崎庄十

小頭　西野宗吉
仝　池上芳太郎
仝　望月角太郎
小頭　小澤竹藏
仝　稻葉留作
仝　石ケ谷五兵衞
第五部長　劍持宰司
小頭　榊原仙太郎
仝　劍持順作
仝　牧田金末
仝　杉山清太郎
仝　榊原元次
仝　彌次金三藏

仝　山本謙司
仝　栗田定吉
第六部長　杉山由松
小頭　山田惣太郎
仝　遠藤勝太郎
仝　磯田長作
仝　池上延太郎
仝　杉原作次郎
仝　戸田喜一郎
仝　丸山政吉
仝　川口政吉
仝　芹澤泰助
仝　加藤米太郎

仝　坪井實知男
仝　寺田國三郎
仝　杉山勇次郎
仝　山田經一郎
第七部長　村岡源次郎
小頭　小長井豐次
仝　橋本茂
仝　京屋政吉
仝　坪井七五三
仝　水野錬作
仝　松本喜一郎
仝　後藤義夫

産業

通觀

清水市は港灣を容する關係上産業は逐年發達し、清水港の利用向上に同一歩調を以て躍進の一途を辿つて居るが、大正十三年市制施行當時は人口四萬三千人、生産總額一、九四四萬圓だつたものが昭和十年に於ては人口六萬四千五百人、生額總額二、九〇〇萬圓に達して居る等は此の間の消息を如實に物語るものである。然も尙今市産業の發展は今後其の止る所を知らず。昭和十年、十一年に於ては特に其の感を深からしめ、個人事業体は漸次法人に移り、其の數一〇四會社を示し、資本投下額は一〇、〇二〇、七六〇圓に及んで居る。

職業別戸數

	農業	水産業	工業	商業	交通業	公務自由業	其他	家事使用人	無職	計
昭和十年	一、七三〇	三九三	二、六三九	三、二一〇	一、一六六	八九〇	九三一	四三	六〇六	一二、六〇八
仝九年	一、六〇三	三一九	二、六〇〇	三、一七五	九九六	七八四	一、三四一	三五	五三〇	一二、三八三
仝八年	一、六一三	三〇九	二、七六七	三、一六九	一、〇六〇	七二五	九二四	一五	七五七	一二、三三九

生産物總價額

	農業	水産業	畜産	林産	工産	計
昭和十年	一、二三七、一五七	一、二一三、四一五	二五五、四六四	二、七八八	二七、三三九、六九六	二九、九四八、五二〇
仝九年	九二三、〇二三	一、三七〇、〇四五	一九〇、〇五七	二、七八二	二五、一五九、四八八	二七、六四五、四七〇
仝八年	九六四、三五二	一、三三四、四六六	一八六、一四三	二、九〇五	二六、七七四、八六八	二九、二五二、七三四

會社（昭和十年）

	社數	公稱資本金	拂込資本金	積立金
工業	三七	三、七三五、一九〇円	二、八〇二、六九〇	三三八、一九二
商業	五七	二、三六七、〇七〇	一、六三五、八二〇	一八七、二〇八
銀行業	一	二、二五〇、〇〇〇	一、六五三、五〇〇	三三五、五〇〇
運輸業	九	一、四〇八、五〇〇	一、三五五、五〇〇	三〇、七〇〇
計	一〇四	一〇、〇二〇、七六〇	七、四三五、五一〇	七八一、六〇〇
株式會社	三一	九、一二一、〇〇〇円	六、五三六、七五〇	七四六、〇二三
合資會社	六六	七七八、二七〇	七七八、二七〇	三五、五七七
合名會社	七	一二〇、四九〇	一二〇、四九〇	〇
計	一〇四	一〇、〇二〇、七六〇	七、四三五、五一〇	七八一、六〇〇

商　工　業

本市の商工業は清水港を中心として發達して居るので貿易の頁に於て詳述するが、昭和十年の輸出入總額は三六、四九四、一五〇圓に及び移出入總額は二五、七九四、六四二圓に及び綠茶、罐詰、製油、木材、倉庫、回漕、鐵工、造船等が主なるものと云へよう。

工場總覽

（常時職工五人以上使用スルモノ）

種別	工場數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	生産額	數量	價額
紡績工業	四	四	一八	三三	六三、九九一円		
金屬工業	四	一四七、八七六	一二五	一三〇	一四七、八七六		
機械器具工業	二四	八五九、八四八	四一六	四三五	八五九、八四八		
化學工業	六	一六、五五一、五三四	三四六	四一七	一六、五五一、五三四		
製材及木製品工業	四一	四、〇八四、一一四	一、〇六七	一、二一〇	四、〇八四、一一四		
印刷製本業	六	六九、六三〇	三三	三三	六九、六三〇		
食料品工業	三二	三、七八六、二三八	三一〇	一、一一三	三、七八六、二三八		
其ノ他ノ工業	一四	三四七、二七六	一三一	一四三	三五、九〇九、五〇七		
計	一三二	二、四一二	一、二〇二	三、六一四			

工業生産額

種別	數量	價額
大豆油	三〇、二六〇、〇〇〇	五、五〇〇、〇〇〇円
撒大豆粕	一五七、〇〇〇、〇〇〇	七、三〇〇、〇〇〇
製氷	四、〇八九、一二〇	一六三、五六五
再製塩	四、六四二、八四八貫	二五一、七九八
清涼飲料水	—	四五、九〇〇
酒	一、八五六石	一三三、六三二
麺類	六〇、二九〇貫	三〇、一四五円
味噌	三三、六四〇	九、九六二
菓子	—	一九五、一五〇
西洋紙	八、〇五〇、一八一ポンド反	二、二二〇、六三六
綿織物	八一、二三三	二六六、五七三
皮革製品	—	四八、五三〇
染物	—	一四、〇七六
竹製品	—	一五、四三八
燐寸	一、〇五一、〇〇〇ダース	一二五、六一〇
木製品	—	三七四、〇四二
製材品	—	三、九八〇、九二五
各種機械類	—	七七三、八四七円
瓦	—	二九、六三七
船舶	—	四〇〇、〇〇〇
鮪油漬罐詰	二〇四、八五四箱	二、一五六、〇一七
鮪味付罐詰	四三、七三三	一三六、六二四
鰹油漬罐詰	一五、一〇六	一三〇、八四八
蜜柑罐詰	六一、三〇一	三一二、二一五
其他罐詰	—	二〇七、五三九
其他	—	二、七七五、九九七
價額合計		二七、三三九、六九六

工業會社

（昭和十年末現在）

商號又ハ名稱	所在地	設立年月	公稱資本金	代表者
龍東材木株式會社	辻	明治三一、五	六五、〇〇〇円	松本藤一
清水瓦斯株式會社	仝	昭和四、一〇	五〇〇、〇〇〇	前川道平
清水冷凍製氷株式會社	仝	昭一〇、七	一八〇、〇〇〇	志田市太郎
株式會社巴川製紙所	入江	大正六、八	一、五〇〇、〇〇〇	井上光治
清水燐寸株式會社	仝	昭和九、一二	一九、〇〇〇	山村其一郎

富士水産株式會社	清水	昭和七、一一	五〇、〇〇〇	山梨重多	太田島萬太郎
清水水産株式會社	富士見町	仝七、三	一五〇、〇〇〇	芝野榮七	外岡松太郎
清水食品株式會社	築地町	仝四、一二	五〇、〇〇〇	植田朋八	小澤茂吉
東郷氷糖株式會社	日之出町	仝一〇、六	二五〇、〇〇〇	近藤伊太郎	多喜六次郎
日本酒造株式會社	三保	仝一〇、一二	一〇〇、〇〇〇	山田乙吉	櫻井源作
櫻田罐詰株式會社	仝	仝一〇、一〇	三二、〇〇〇	櫻田與市	松井喜三郎
株式會社三保造船所	仝	大正八、五	五〇、〇〇〇	植田猪吉	石貝才治郎
合資會社青木材木店	辻	昭和八、六	五〇〇	青木勝藏	望月良藏
合資會社小澤兄弟製函所	仝	大正一二、一二	三、〇〇〇	小澤喜重	山田乙吉
合資會社神戸自動車製作所	仝	昭和八、五	一、五〇〇	神戸善太郎	櫻田與市
合資會社高田洋服店	仝	仝五、三	一、五〇〇	高田高吉	大塚辰平
合資會社大塚製材所	仝	仝八、六	四〇、〇〇〇	大塚辰平	望月良藏
合資會社望月商店	江尻	大正一〇、一二	一〇、〇〇〇	望月良藏	石貝才治郎
東海製茶貿易合資會社	仝	明治三五、五	一〇、〇〇〇	石貝才治郎	松井喜三郎
合資會社清水ブーレキ商會	入江	昭和七、一	三、五〇〇	松井喜三郎	櫻井源作
合資會社鈴與自動車工場	仝	仝八、五	三〇、〇〇〇	櫻井源作	多喜六次郎
合資會社マルキタ合劑製造所	仝	仝七、一一	三、〇〇〇	多喜六次郎	小澤茂吉
小澤合資會社	上清水	仝九、四	一、一〇〇	小澤茂吉	外岡松太郎
清水製函合資會社	清水	仝六、一一	三、〇〇〇	外岡松太郎	太田島萬太郎
合資會社太田島組	萬世町	仝七、一〇	五、〇〇〇	太田島萬太郎	酒井登志郎

合資會社清水鑄造鐵工所	築地町	昭和三、九	一、九九〇	遠藤市太郎	酒井登志郎
合資會社三共商會	仝	仝六、一一	三、〇〇〇	山崎泰次郎	青木庫平
合資會社菊菱工業所	仝	仝五、一〇	三、〇〇〇	菊地定吉	金指丈吉
天城製材合資會社	松原町	仝六、三	二〇、〇〇〇	横山定	井上勝次
合資會社海電社	仝	仝五、四	一三、一〇〇	村田達平	岸山常太郎
合資會社清月堂	村松	仝六、二	三、〇〇〇	石上萬太郎	福島庄太郎
福島製材合資會社	駒越	仝七、五	三、〇〇〇	福島庄太郎	井上勝次
合資會社岸山製材所	折戸	仝三、一二	五、〇〇〇	岸山常太郎	稲田良靜
合資會社三保製材所	三保	仝二、三	一〇、〇〇〇	井上勝次	鈴木與平
株式會社金指造船所	仝	大正九、二	一〇〇、〇〇〇	金指丈吉	山田乙吉
合名會社青木材木店	辻	仝六、一〇	五、〇〇〇	青木庫平	佐野容造
大力製材合資會社	駒越	昭和九、一	五〇、〇〇〇	酒井登志郎	稲田良靜

商業會社

商號又ハ名稱	所在地	設立年月	公稱資本金	代表者
清水港土地株式會社	辻	昭和四、一〇	二〇〇、〇〇〇	佐野容造
株式會社九州石炭商會	仝	仝九、一二	三〇、〇〇〇	稲田良靜
駿遠塩業株式會社	江尻	大正一四、六	一五〇、〇〇〇	鈴木與平
宮城島酒造株式會社	萬世町	仝一三、八	三〇〇、〇〇〇	山田乙吉

印クッピムリオ

清水漬

罐詰製造販売
冷凍冷藏業

SMC
清水水産株式会社
電話 二六二 三二二番

清江木材株式會社	入船町	昭和六、九	二〇〇、〇〇〇	伊藤良三
鈴與倉庫株式會社	仝	大正七、五	一〇〇、〇〇〇	鈴木與平
株式會社清水木材倉庫	仝	仝一五、五	三〇〇、〇〇〇	仝
清水木材株式會社	新港町	仝一三、三	五五、〇〇〇	高塚龜一
山明商事株式會社	仝	昭和三、四	六〇、〇〇〇	内藤政登
駿遠商事株式會社	港町	大正九、三	五〇、〇〇〇	青島清一
株式會社清水魚市場	仝	昭和六、九	三〇〇、〇〇〇	芝野榮七
清水倉庫株式會社	日之出町	明治二九、一	一〇〇、〇〇〇	前川道平
清水醬油株式會社	村松	大正一三、一	一〇、〇〇〇	山本大次郎
株式會社不二見實行社	駒越	仝二、一〇	一一、〇〇〇	岩崎啓次郎
合資會社石月商店	辻	昭和七、一一	五、〇〇〇	石月爲吉
合資會社昭和堂小長井時計商店		仝二、一〇	一、二五〇	小長井書助
合資會社南米商事會社		仝八、四	一、〇〇〇	飯田伊平
合資會社セーコー自動車商會		大正一五、八	七、〇〇〇	寺田忠吉
合資會社池上米店		昭和九、二	八七二	池上堅太郎
合資會社清水日日新聞社		仝一〇、一	一〇、〇〇〇	若林今朝一
合資會社望月兄弟商會		仝五、五	一五〇、〇〇〇	望月益之助
清水貿易合資會社		仝九、七	一一、〇〇〇	小島國太郎
合資會社井出商會		仝五、一〇	四、〇〇〇	井出一朗
合資會社神谷石材店		仝六、五	二、〇〇〇	神谷庄吉

二硫化炭素製造

清水硫化工業所

安倍郡有度村中之郷
電話（有度）二一六番

清水市入江大曲

合資會社

マルキタ合劑製造所

電話 清水七一三番
振替東京三七三六二番

燃料經濟の親玉

鈴與煉炭の用途

一、火鉢用　一、臺所用　一、風呂用
一、ストーブ用　一、養蠶用　一、養鷄用
一、製菓用　一、溫室用　一、籾乾燥用
一、其の他

◎煉炭專用器具は各種取揃へてあります

清水市

株式會社 鈴與商店煉炭部

電話八〇七番

工場所在地　清水、豊橋、濱松

本年度配當最高
十三割五分

高級社員採用

相互會社の生命保險
理想の元祖

月末契約高
十九億餘萬圓

靜岡縣の爲めに働け我等縣民の爲めに働け

業務は簡易固定給を與ふ（採用管區縣下一帶）

最大より最良をモットーとする我社は何故に社員を大募するか先づ來談せられよ

年齡廿五歳以上
經驗ノ有無ヲ問ハズ
無經驗者指導ス
官公吏退職者優遇ス
確實ナル保證人二名要ス

第一生命
靜岡支部長
靜岡市紺屋町 電二四七八

清水遊廓
貸座敷業組合

山湖樓	電話四三三番	
第二山湖樓	電話八三六番	
千疊樓	電話六一二番	
加嶋樓	電話六八八番	
吉本樓	電話八一八番	
大阪樓	電話二五〇番	
菊村樓	電話三一六番	
壽々喜樓	電話七九六番	
常盤樓	電話五五七番	

有價証券
現物賣買

父

清水市上二丁目

山本專太郎商店

電話 四一 六四 九三 番

有價証券現物

㋑

稲名商店

清水市相生町

電話 二二 三三 九八 番

富士身延線大宮町驛前

通

大宮町合同運送合資會社

電話 六十九番 七十四番